



LAN ポートおよびポート チャンネル

- [ポートモード \(1 ページ\)](#)
- [ポートタイプ \(2 ページ\)](#)
- [ブレイクアウトイーサネットポート \(3 ページ\)](#)
- [統合ポート \(19 ページ\)](#)
- [ポートモードの変更 \(23 ページ\)](#)
- [サーバポート \(33 ページ\)](#)
- [アップリンクイーサネットポート \(35 ページ\)](#)
- [アプライアンスポート \(37 ページ\)](#)
- [FCoE およびファイバチャンネルストレージポート \(41 ページ\)](#)
- [FCアップリンクポートの設定 \(43 ページ\)](#)
- [転送エラー修正のためのFCoEアップリンクの設定 \(43 ページ\)](#)
- [FCoEアップリンクポート \(45 ページ\)](#)
- [ユニファイドストレージポート \(46 ページ\)](#)
- [ユニファイドアップリンクポート \(48 ページ\)](#)
- [アップリンクイーサネットポートチャンネル \(50 ページ\)](#)
- [アプライアンスポートチャンネル \(52 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Mini スケーラビリティポート \(55 ページ\)](#)
- [しきい値定義の作成 \(56 ページ\)](#)
- [ポリシーベースのポートエラー処理 \(57 ページ\)](#)
- [FCoEポートチャンネル数 \(58 ページ\)](#)
- [ユニファイドアップリンクポートチャンネル \(59 ページ\)](#)
- [アダプタポートチャンネル \(60 ページ\)](#)
- [ファブリックポートチャンネル \(61 ページ\)](#)
- [Internal Fabric Manager を使用したサーバポートの設定 \(64 ページ\)](#)

ポートモード

ポートモードは、ファブリックインターコネクタ上の統合ポートが、イーサネットまたはファイバチャンネルトラフィックを転送するかどうかを決定します。ポートモードは Cisco UCS

Manager で設定します。ただし、ファブリック インターコネクトは自動的にポート モードを検出しません。

ポートモードを変更すると、既存のポート設定が削除され、新しい論理ポートに置き換えられます。VLANやVSANなど、そのポート設定に関連付けられているオブジェクトもすべて削除されます。ユニファイドポートのポートモードを変更できる回数に制限はありません。

ポートタイプ

ポートタイプは、統合ポート接続経由で転送されるトラフィックのタイプを定義します。

デフォルトでは、イーサネットポートモードに変更されたユニファイドポートはイーサネットアップリンクポートタイプに設定されます。ファイバチャンネルポートモードに変更された統合ポートは、ファイバチャンネルアップリンクポートタイプに設定されます。ファイバチャンネルポートを設定解除することはできません。

ポートタイプ変更時のレポートは不要です。

イーサネットポートモード

イーサネットにポートモードを設定するときは、次のポートタイプを設定できます。

- サーバポート
- イーサネットアップリンクポート
- イーサネットポートチャンネルメンバ
- FCoEポート
- アプライアンスポート
- アプライアンスポートチャンネルメンバ
- SPAN宛先ポート
- SPAN送信元ポート



(注) SPAN送信元ポートは、ポートタイプのいずれかを設定してから、そのポートをSPAN送信元として設定します。

ファイバチャンネルポートモード

ファイバチャンネルにポートモードを設定するときは、次のポートタイプを設定できます。

- ファイバチャンネルアップリンクポート
- ファイバチャンネルポートチャンネルメンバ
- ファイバチャンネルストレージポート

- FCoE アップリンク ポート
- SPAN 送信元ポート



(注) SPAN 送信元ポートは、ポートタイプのいずれかを設定してから、そのポートを SPAN 送信元として設定します。

ブレイクアウトイーサネットポート

Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクットのポートのブレイクアウト機能

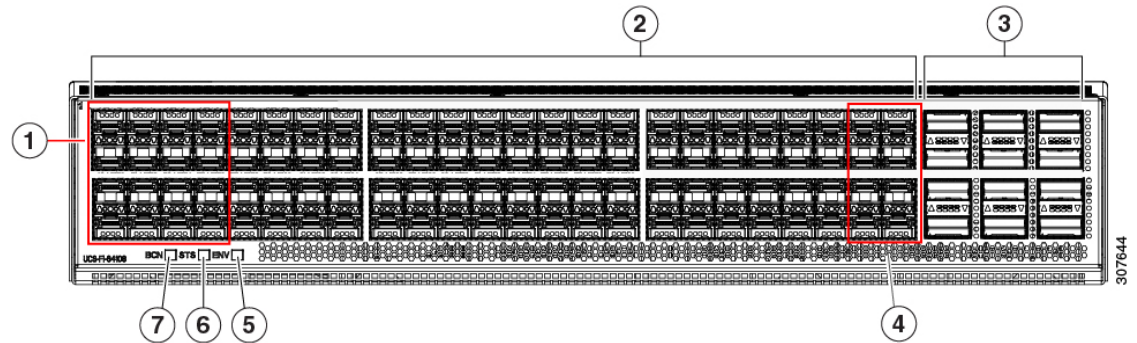
ブレイクアウトポートについて

Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクットは、サポートされたブレイクアウトケーブルを使用して、1つの QSFP ポートを 4つの 10/25G ポートに分割できます。UCS 64108 ファブリック インターコネクットで、デフォルト 12 ポートが 40/100 G モードにします。これらはポート 97~108 です。これらの 40/100G ポートには、2 タプルの命名規則で番号が割り当てられます。たとえば、2 番目の 40G ポートには 1/99 という番号が割り当てられます。40G から 10G に、100G から 25G に設定を変更するプロセスは、ブレイクアウトと呼ばれ、[4X]10G から 40G の設定に、または [4X]10G から 40G の設定に変更するは、設定解除と呼ばれます。これらのポートは、アップリンク、アプライアンス、および FCoE ストレージポートとして使用できます。サーバポートとして設定する必要があります。

40G ポートを 10G ポートに、または 100G ポートを 25G ポートにブレイクアウトすると、結果で得られるポートは 3 タプルの命名規則を使用して番号が割り当てられます。たとえば、2 番目の 40 ギガビットイーサネットポートのブレイクアウトポートには 1/99/1、1/99/2、1/99/3、1/99/4 という番号が割り当てられます。

次の図は、Cisco UCS 64108 シリーズ ファブリック インターコネクットの背面図を表しており、これにはブレイクアウトポート機能をサポートしているポートが含まれています。

図 1 : Cisco UCS 64108 Fabric Interconnect Rear View



1	<p>ポート 1 ~ 16。ユニファイドポートは、10/25 Gbps のイーサネットまたは 8/16/32 Gbps ファイバチャネルとして動作できます。FC ポートは、4 つのグループに変換されます。</p> <p>ユニファイドポート：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10/25 Gbps イーサネットまたは FCoE • 8/16/32 Gbps ファイバチャネル 	2	<p>ポート 1 ~ 96。各ポートは、10 Gbps または 25 Gbps イーサネットまたは FCoE SFP28 ポートとして動作できます。</p>
3	<p>アップリンク ポート 97 ~ 108。各ポートは、40 Gbps または 100 Gbps のイーサネットポートまたは FCoE ポートとして動作できます。ブレイクアウトケーブルを使用すると、これらのポートの各は 4 x 10 Gbps または 4 x 25 Gbps のイーサネットまたは FCoE ポートとして動作します。</p> <p>ポート 97 ~ 108 は、UCS サーバポートではなく、イーサネットまたは FCoE アップリンク ポートに接続するときに使用できます。</p>	4	<p>ポート 89 ~ 96</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10/25 Gbps イーサネットまたは FCoE • 1 Gbps イーサネット
5	システム環境 (ファンの障害) LED	[6]	システム ステータス LED
7	ビーコン LED		

ブレイクアウト ポートのガイドライン

次に、Cisco UCS 64108 のファブリック インターコネクットのブレイクアウト機能のガイドラインを示します。

- ブレイクアウト設定可能なポートは 97~108 です。
- 各ブレイクアウトポートの速度を設定することはできません。各ブレイクアウトポートが auto モードです。
- サポートされているファブリック インターコネクットのポート (1/97 に 1/108) のいずれかのブレイクアウトモードを設定した後、ファブリック インターコネクットがリブートします。
- ブレイクアウト ポートは、トラフィック モニタリングの宛先としてサポートされていません。
- ポート 97~108 は、アップリンク、アプライアンス、および FCoE ストレージポートとして使用できます。サーバポートとして設定する必要があります。

UCS 64108 ファブリック インターコネクットのイーサネット ブレイクアウト ポートの設定



注意 ブレイクアウトポートを設定するには、ファブリック インターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ブレイクアウト ポートの設定が終了したら、必要に応じて、各 10/25G GB サブポートをアップリンクとして、または FCoE アップリンクを設定できます。

手順

ステップ 1 [Equipment] タブの [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] を展開します。

ファブリック インターコネクットの [General] タブが表示されて、選択したファブリック インターコネクットのステータス、アクション、物理表示、プロパティ、およびファームウェア情報を一目で確認できます。

ステップ 2 ブレイクアウトに使用可能なポートを表示します。

ポートの全体的なステータスが稼動中であり、管理状態が使用可能であることを確認します。次のいずれかを実行します。

- [Work] ペインの [Physical Ports] タブをクリックします。[Ethernet Ports] サブタブおよび [FC Ports] サブタブが表示されます。

- [Work] ペインで、[Physical Display] タブをクリックします。[Physical Display] には、ベース ファブリック インターコネクットのグラフィック表示と、ポートの管理ステータスを識別するのに役立つ凡例が表示されます。
- [Navigation] ペインで、[Fabric Interconnect Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] を展開します。この操作により、ツリー ビューにポートが表示されます。

ステップ 3 分割できる 1 個以上のポートを選択します。UCS 6454 ファブリック インターコネクットで、ポート 97~108 のサポートのブレイクアウトをポートします。次のいずれかを実行します。

- [Physical Display] で、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらかlickして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] タブで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらかlickして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] ツリー ビューで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらかlickして複数のポートを選択します。

ステップ 4 選択したポートをブレイクアウト ポートとして設定します。

- **イーサネット ポート** タブでは、選択したポートを右クリックし、ポップアップ メニューから[4x10G ブレイクアウト ポートの設定]または[4x25G ブレイクアウト ポートの設定]を選択します。ポートがブレイクアウトをサポートしない場合、このコマンドは無効になります。
- **イーサネット ポート** ツリー ビューでは、選択したポートを右クリックし、ポップアップ メニューから**設定 4x10G ブレイクアウト ポート**または**4x25G ブレイクアウト ポートの構成**を選択します。ポートがブレイクアウトをサポートしない場合、このコマンドは無効になります。また、[Ethernet Ports] ツリー ビューでポートを選択し、[Work] ペインの [Actions] 領域から [Configure Breakout Port] を選択することもできます。ドロップダウン リストから、ブレイクアウトポートを**4x10G ポート**または**4x25G**ポートのいずれとして設定するかどうかを選択します。

注意 ブレイクアウト ポートを設定するには、ファブリック インターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

再起動プロセスには数分かかります。

ステップ 6 ファブリック インターコネクットが再起動したら、Cisco UCS Manager にログインし、要件に応じてブレイクアウト ポートを設定します。

1 個以上のポートを右クリックし、次のコマンドの 1 つを選択します。次の表に、コマンドを選択すると発生するアクションを示します。コマンドが無効の場合、ポートはすでそれに応じて設定されています。

設定コマンド	操作
Configure as Server Port	UCS 64108 ではサポートされていません。

設定コマンド	操作
[Configure as Uplink Port]	操作を確認します。設定が行われます。成功メッセージが表示されます。[Yes]をクリックします。
Configure as FCoE Uplink Port	操作を確認します。設定が行われます。成功メッセージが表示されます。[Yes]をクリックします。
Configure as FCoE Storage Port	UCS 64108 ではサポートされていません。
Configure as Appliance Port	UCS 64108 ではサポートされていません。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されます。[Yes] をクリックします。

ファブリック インターコネクットが再起動し、すべてのトラフィックが停止します。

Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクットのポートのブレイクアウト機能

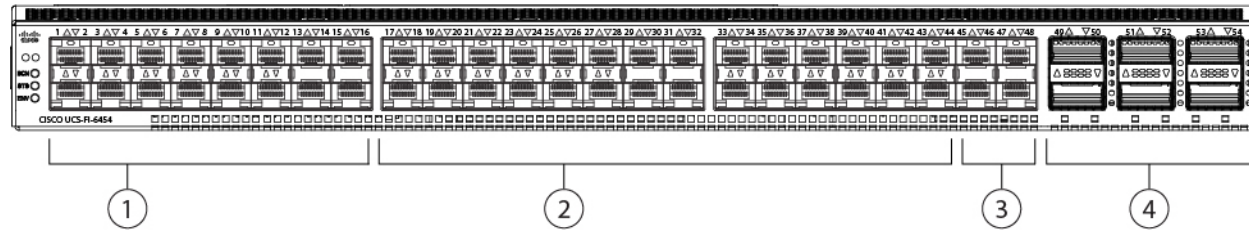
ブレイクアウト ポートについて

Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクットは、サポートされたブレイクアウト ケーブルを使用して、1 つの QSFP ポートを 4 つの 10/25G ポートに分割できます。これらのポートをアップリンク ポートの 10/25 G スイッチに接続するとしてのみ使用できます。UCS 6454 ファブリック インターコネクットで、by default(デフォルトで、デフォルトでは) 6 ポートが 40/100 G モードにします。これらは、ポート 49 に 54 です。これらの 40/100G ポートには、2 タプルの命名規則で番号が割り当てられます。たとえば、2 番目の 40G ポートには 1/50 という番号が割り当てられます。40G から 10G に、100G から 25G に設定を変更するプロセスは、ブレイクアウトと呼ばれ、[4X]10G から 40G の設定に、または [4X]10G から 40G の設定に変更するは、設定解除と呼ばれます。

40G ポートを 10G ポートに、または 100G ポートを 25G ポートにブレイクアウトすると、結果で得られるポートは 3 タプルの命名規則を使用して番号が割り当てられます。たとえば、2 番目の 40 ギガビットイーサネット ポートのブレイクアウト ポートには 1/50/1、1/50/2、1/50/3、1/50/4 という番号が割り当てられます。

次の図は、Cisco UCS 6454 シリーズ ファブリック インターコネクットの背面図を表しており、これにはブレイクアウト ポート機能をサポートしているポートが含まれています。

図 2: Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクットの背面図



1	ポート 1 ~ 16 (ユニファイド ポート 10/25 Gbps イーサネットまたは FCoE または 8/16/32 Gbps ファイバ チャンネル)	2	ポート 17 ~ 44 (10/25 Gbps イーサネット または FCoE)
3	ポート 45 ~ 48 (1/10/25 Gbps イーサネット または FCoE)	4	アップリンク ポート 49 ~ 54 (40/100 Gbps イーサネット または FCoE)

ブレイクアウトポートのガイドライン

次に、Cisco UCS 6454 のファブリック インターコネクットのブレイクアウト機能のガイドラインを示します。

- ブレイクアウト設定可能なポートは 49 54 です。
- 各ブレイクアウトポートの速度を設定することはできません。各ブレイクアウトポートが auto モードです。
- サポートされているファブリック インターコネクットのポート (1/49 に 1/54) のいずれかのブレイクアウトモードを設定した後、ファブリック インターコネクットがリブートします。
- ブレイクアウトポートは、Cisco UCS Manager リリース 4.0(2) で、トラフィック モニタリングの宛先としてサポートされていません。
- 49 54 のポートは、アップリンクポートとしてのみ設定できます。として、次のいずれかに構成することはできません。
 - サーバポート
 - FCoE ストレージポート
 - アプライアンスポート

UCS 6454 ファブリック インターコネクットのイーサネット ブレイクアウト ポートの設定



注意 ブレイクアウトポートを設定するには、ファブリック インターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ブレイクアウト ポートの設定が終了したら、必要に応じて、各 10/25G GB サブポートをアップリンクとして、または FCoE アップリンクを設定できます。

手順

ステップ 1 [Equipment] タブの [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] を展開します。

ファブリック インターコネクットの [General] タブが表示されて、選択したファブリック インターコネクットのステータス、アクション、物理表示、プロパティ、およびファームウェア情報を一目で確認できます。

ステップ 2 ブレイクアウトに使用可能なポートを表示します。

ポートの全体的なステータスが稼動中であり、管理状態が使用可能であることを確認します。次のいずれかを実行します。

- [Work] ペインの [Physical Ports] タブをクリックします。[Ethernet Ports] サブタブおよび [FC Ports] サブタブが表示されます。
- [Work] ペインで、[Physical Display] タブをクリックします。[Physical Display] には、ベース ファブリック インターコネクットのグラフィック表示と、ポートの管理ステータスを識別するのに役立つ凡例が表示されます。
- [Navigation] ペインで、[Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] を展開します。この操作により、ツリー ビューにポートが表示されます。

ステップ 3 分割できる 1 個以上のポートを選択します。UCS 6454 ファブリック インターコネクットで、ポート 49 ~ 54 のサポートのブレイクアウトをポートします。次のいずれかを実行します。

- [Physical Display] で、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] タブで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] ツリー ビューで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。

ステップ 4 選択したポートをブレイクアウト ポートとして設定します。

- イーサネット ポート タブでは、選択したポートを右クリックし、ポップアップメニューから**[4x10G ブレイクアウト ポートの設定]**または**[4x25G ブレイクアウト ポートの設定]**を選択します。ポートがブレイクアウトをサポートしない場合、このコマンドは無効になります。
- イーサネット ポート ツリー ビューでは、選択したポートを右クリックし、ポップアップメニューから**設定 4x10G ブレイクアウト ポート**または**4x25G ブレイクアウト ポートの構成**を選択します。ポートがブレイクアウトをサポートしない場合、このコマンドは無効になります。また、[Ethernet Ports] ツリー ビューでポートを選択し、[Work] ペインの [Actions] 領域から **[Configure Breakout Port]** を選択することもできます。ドロップダウン リストから、ブレイクアウトポートを**4x10G ポート**または**4x25G**ポートのいずれかとして設定するかどうかを選択します。

注意 ブレイクアウト ポートを設定するには、ファブリック インターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

再起動プロセスには数分かかります。

ステップ 6 ファブリック インターコネクットが再起動したら、Cisco UCS Manager にログインし、要件に応じてブレイクアウト ポートを設定します。

1 個以上のポートを右クリックし、次のコマンドの 1 つを選択します。次の表に、コマンドを選択すると発生するアクションを示します。コマンドが無効の場合、ポートはすでそれに応じて設定されています。

設定コマンド	操作
Configure as Server Port	UCS 6454 ではサポートされていません。
[Configure as Uplink Port]	操作を確認します。設定が行われます。成功メッセージが表示されます。[Yes] をクリックします。
Configure as FCoE Uplink Port	操作を確認します。設定が行われます。成功メッセージが表示されます。[Yes] をクリックします。
Configure as FCoE Storage Port	UCS 6454 ではサポートされていません。
Configure as Appliance Port	UCS 6454 ではサポートされていません。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されます。[Yes] をクリックします。

ファブリック インターコネクットが再起動し、すべてのトラフィックが停止します。

Cisco UCS FI 6454 における QSA アダプタ付き 10/25G ポートの設定

UCS FI 6454 上のポートがデフォルトの 40/100G ポート速度で稼動している場合、Cisco UCS Manager では 1GB、10GB、25G のポート速度を選択できません。もう一方の端で QSFP+Adapter (QSA) トランシーバ付き 10/25 GB ポートとして UCS FI-6454 の 40/100G ポートを使用するには、ポートをブレイクアウト モードに設定する必要があります。



- (注) ポートの速度を 10GB または 25GB に変更しようとする、Cisco UCS Manager はプロンプトを表示し、ポートをブレイクアウトモードに設定するように要求します。ブレイクアウトポートの設定が終了したら、必要に応じて、各 10/25G GB サブポートをアップリンクとして、または FCoE アップリンクを設定できます。

ポートをブレイクアウトするとき、ブレイクアウトケーブルを使用して 1つのポートを 4つの 10G ポートまたは 25G ポートに分割し、それらのポートをブレイクアウトモードに設定すると、すべてのポートを 10 GB ポートまたは 25G ポートとして使用できます。ブレイクアウトケーブルなしでポートをブレイクアウトした場合、最初のレーンのみが 10G または 25G インターフェイスとして使用可能になります。

手順

- ステップ 1** Cisco UCS FI 6454 で 10/25G ポートとして使用するポートにブレイクアウト機能を設定します。ブレイクアウト機能の設定の詳細については、『*Configuring Fabric Interconnect Ethernet Breakout Ports*』を参照してください。

注意 ブレイクアウトポートを設定するには、ファブリック インターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションで必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

- ステップ 2** Cisco UCS Manager では、QSA トランシーバを FI ポートに取り付けた後に、最初のタプル インターフェイスが有効になります。このインターフェイスは各自の要件に基づいて設定できません。

40/100G ポートのブレイクアウトにより生じたポートには、3 タプルの命名規則を使用して番号が割り当てられます。たとえば、2 番目の 40 ギガビット イーサネット ポートのブレイクアウトポートには 1/50/1、1/50/2、1/50/3、1/50/4 という番号が割り当てられ、最初のポートのみが 10 GB ポートとして使用できるようになります。

Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクットのポートのブレイクアウト機能

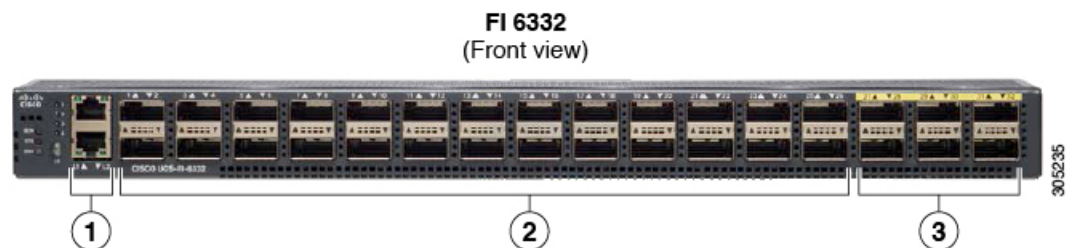
ブレイクアウトポートについて

Cisco UCS ファブリック インターコネクットの 6300 シリーズでは、1つの QSFP ポートを4つの 10G ポートに分割できます。このとき、サポートされているブレイクアウトケーブルを使用します。デフォルトでは、40G モードでは32個のポートがあります。これらの40G ポートには、2タプルの命名規則で番号が割り当てられます。たとえば、2番目の40G ポートには、2という番号が割り当てられます。40Gから10Gに設定を変更するプロセスはブレイクアウトと呼ばれ、(4つの) 10G から40G に設定を変更するプロセスは設定解除と呼ばれます。

40G ポートを10G ポートにブレイクアウトする場合、得られたポートには3タプルの命名規則を使用して番号が割り当てられます。たとえば、2番目の40ギガビットイーサネットポートのブレイクアウトポートには1/2/1、1/2/2、1/2/3、1/2/4という番号が割り当てられます。

次の図は、Cisco UCS 6332 シリーズ ファブリック インターコネクットの正面図を表しており、これにはブレイクアウトポート機能をサポートしているポートが含まれています。

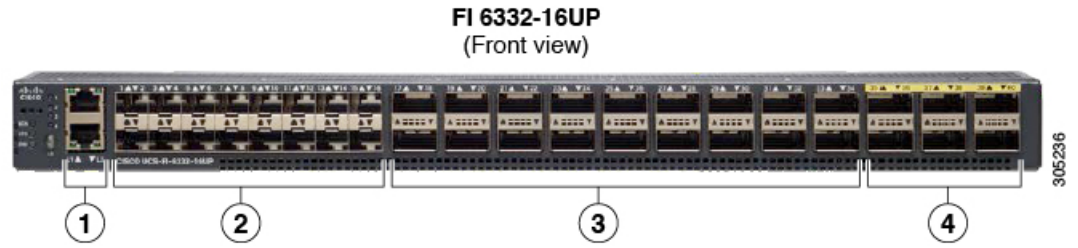
図 3: Cisco UCS 6332 シリーズ ファブリック インターコネクットの正面図



1	L1 および L2 ハイ アベイラビリティ ポート
2	40G QSFP ポート X 28 (10G SFP ポート X 98) (注) <ul style="list-style-type: none"> • QSA モジュールはポート 13 ~ 14 で必要。 • 10G のサポートには QSFP から 4XSFP へのブレイクアウトケーブルが必要。
3	40G QSFP ポート X 6

次の図は、Cisco UCS 6332-16UP シリーズ ファブリック インターコネクットの正面図を表しており、これにはブレイクアウトポート機能をサポートしているポートが含まれています。

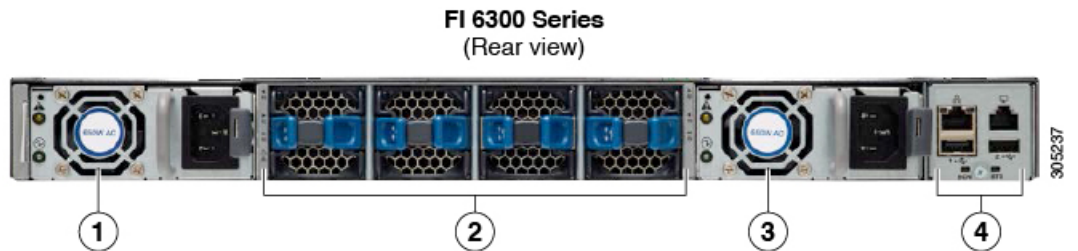
図 4: Cisco UCS 6332-16UP シリーズ ファブリック インターコネクットの正面図



1	L1 および L2 ハイ アベイラビリティ ポート
2	1/10G SFP ポート X 16 (4/8/16G FC ポート X 16)
3	40G QSFP ポート X 18 (10G SFP+ ポート X 72) (注) • 10G のサポートには QSFP から 4XSFP へのブレイクアウト ケーブルが必要。
4	40G QSFP ポート X 6

次の図は、Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクットの背面図を表しています。

図 5: Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクットの背面図



1	電源モジュール
2	ファン X 4
3	電源モジュール
4	シリアル ポート

ブレイクアウト ポートの制約事項

次の表に、Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクットのブレイクアウト機能の制約事項をまとめています。

Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコ ネク	ブレイクアウト設定が可 能なポート	ブレイクアウト機能をサポートしてい ないポート
Cisco UCS 6332	1 ~ 12、15 ~ 26	13 ~ 14、27 ~ 32 (注) <ul style="list-style-type: none"> ポート 27 ~ 32 では自動 ネゴシエートの動作はサ ポートされていません。
Cisco UCS 6332-16UP	17 ~ 34	1 ~ 16、35 ~ 40 (注) <ul style="list-style-type: none"> ポート 35 ~ 40 では自動 ネゴシエートの動作はサ ポートされていません。



重要 QoS ジャンボフレームを使用する場合、最大で4つのブレイクアウトポートが許可されます。

UCS6300 ファブリック インターコネクットのイーサネット ブレイクアウト ポートの設定

サポートされているブレイクアウト ケーブルを使用することで、40 GB イーサネット ポートを装備した Cisco UCS 6300 ファブリック インターコネクットを、4 個の 10 GB ポートとして分離できます。この構成には、ファブリック インターコネクットと接続する 1 個の 40GB QSFP+ が一方の端にあり、10 GB 接続をサポートする異なるエンドポイントに接続する 4 個の 10 GB ポートが他方の端にある、Small Form-Factor Pluggable アダプタ (SPF) が必要です。



注意 ブレイクアウトポートを設定するには、ファブリックインターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ブレイクアウトポートの設定を終えれば、各 10 GB サブポートを、サーバ、アップリンク、FCoE アップリンク、FCoE ストレージまたはアプライアンスとして必要に応じて設定できます。

次の表は、Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクットのブレイクアウト機能の制約をまとめています。

ファブリック インターコネク ト	ブレイクアウト設定可能な ポート	ブレイクアウトをサポートし ない標準ポート
UCS-FI-6332	1 ~ 12、15 ~ 26	13 ~ 14、27 ~ 32 (注) <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエート動作は、ポート 27 ~ 32 ではサポートされません。 • QoS ジャンボフレームを使用する場合は最大 4 つのポートをブレイクアウトポートとして使用できます。
UCS-FI-6332-16UP	17 ~ 34	1 ~ 16、35 ~ 40 (注) <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエート動作は、ポート 35 ~ 40 ではサポートされません。 • QoS ジャンボフレームを使用する場合は最大 4 つのポートをブレイクアウトポートとして使用できます。

手順

ステップ 1 [Equipment] タブの [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] を展開します。

ファブリック インターコネクットの [General] タブが表示されて、選択したファブリック インターコネクットのステータス、アクション、物理表示、プロパティ、およびファームウェア情報を一目で確認できます。

ステップ 2 ブレイクアウトに使用可能なポートを表示します。

ポートの全体的なステータスが稼動中であり、管理状態が使用可能であることを確認します。次のいずれかを実行します。

- [Work] ペインの [Physical Ports] タブをクリックします。[Ethernet Ports] サブタブおよび [FC Ports] サブタブが表示されます。
- [Work] ペインで、[Physical Display] タブをクリックします。[Physical Display] には、ベース ファブリック インターコネクットのグラフィック表示と、ポートの管理ステータスを識別するのに役立つ凡例が表示されます。
- [Navigation] ペインで、[Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] を展開します。この操作により、ツリー ビューにポートが表示されます。

ステップ 3 分割できる 1 個以上のポートを選択します。次のいずれかを実行します。

- [Physical Display] で、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] タブで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] ツリー ビューで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。

ステップ 4 選択したポートをブレイクアウト ポートとして設定します。

選択したポートを右クリックし、ポップアップ メニューから [Configure Breakout Port] を選択します。ポートがブレイクアウトをサポートしない場合、このコマンドは無効になります。また、[Ethernet Ports] ツリー ビューでポートを選択し、[Work] ペインの [Actions] 領域から [Configure Breakout Port] を選択することもできます。

注意 ブレイクアウト ポートを設定するには、ファブリック インターコネクットの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションで必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

再起動プロセスには数分かかります。

ステップ 6 ファブリック インターコネクットが再起動したら、Cisco UCS Manager にログインし、要件に応じてブレイクアウト ポートを設定します。

1 個以上のポートを右クリックし、次のコマンドの 1 つを選択します。次の表に、コマンドを選択すると発生するアクションを示します。コマンドが無効の場合、ポートはすでそれに応じて設定されています。

設定コマンド	操作
Configure as Server Port	操作を確認します。設定が行われます。成功メッセージが表示されます。[Yes] をクリックします。
Configure as Uplink Port	
Configure as FCoE Uplink Port	

設定コマンド	操作
Configure as FCoE Storage Port	システム通知により、FC スイッチングモードをエンドホスト モードに設定する必要があることが表示されます。現在のモードでストレージポートを設定すると失敗します。操作を確認します。設定が行われます。成功メッセージが表示されます。[Yes] をクリックします。
Configure as Appliance Port	イーサネットターゲットエンドポイントなどを設定できる [Configure as Appliance Port] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されます。[Yes] をクリックします。

ファブリック インターコネクタが再起動し、すべてのトラフィックが停止します。

Cisco UCS FI 6332 および 6332-16UP における QSA アダプタ付き 10G ポートの設定

UCS FI-6332 または 6332-16UP 上のポートがデフォルトのポート速度 40G で稼働している場合、Cisco UCS Manager では 1GB や 10GB のポート速度を選択できません。もう一方の端で QSFP+Adapter (QSA) トランシーバ付き 10GB ポートとして UCS FI 6332 または 6332-16UP の 40G ポートを使用するには、ポートをブレイクアウトモードに設定する必要があります。



(注) ポートの速度を 1GB または 10GB に変更しようとする、Cisco UCS Manager はプロンプトを表示し、ポートをブレイクアウトモードに設定するように要求します。ブレイクアウトポートの設定を終えれば、各 10GB サブポートを、サーバ、アップリンク、FCoE アップリンク、FCoE ストレージまたはアプライアンスとして必要に応じて設定できます。

ポートをブレイクアウトした場合、最初のレーンのみが 10G インターフェイスとして使用可能になります。ブレイクアウトケーブルを使用して 1つのポートを 4つの 10G ポートに分割し、それらのポートをブレイクアウトモードに設定すると、すべてのポートを 10GB ポートとして使用できます。

手順

ステップ 1 Cisco UCS FI 6332 または 6332-16UP で 10GB ポートとして使用するポートにブレイクアウト機能を設定します。ブレイクアウト機能の設定の詳細については、『*Configuring Fabric Interconnect Ethernet Breakout Ports*』を参照してください。

注意 ブレイクアウトポートを設定するには、ファブリック インターコネクタの再起動が必要です。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なポートについては、それらをすべて分割することをお勧めします。

ステップ 2 Cisco UCS Manager では、QSA トランシーバを FI ポートに取り付けた後に、最初のタブ インターフェイスが有効になります。このインターフェイスは各自の要件に基づいて設定できます。

40G ポートのブレイクアウトにより生じたポートには、3 タブルの命名規則を使用して番号が割り当てられます。たとえば、サポートされるブレイクアウトポートには Br-Ethernet 1/25/1、Br-Ethernet 1/25/2、Br-Ethernet 1/25/3、Br-Ethernet 1/25/4 などの番号が付けられ、最初のポートのみが 10 GB ポートとして使用可能になります。

イーサネット ブレイクアウト ポートの再設定

サーバ、アップリンク、アプライアンスなど、特定のロールの未設定のブレイクアウトポートを再設定できます。Cisco UCS 6300 または 6400 ファブリック インターコネクト ブレイクアウトポートを再設定して、現在の要件に既存のポート設定を変更することができます。

設定解除された Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクト ブレイクアウトポートは、アップリンクまたは FCoE アップリンクポートとしてのみ再構成することができます。

手順

ステップ 1 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] の順に展開します。

ステップ 2 分割した 1 個以上のポートを選択します。次のいずれかを実行します。

- [Physical Display] で、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] タブで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。
- [Ethernet Ports] ツリービューで、単一のポートをクリックするか、Ctrl を押しながらクリックして複数のポートを選択します。

ステップ 3 ポートの再設定

[General] タブの [Actions] 領域で、ポップアップメニューから [Reconfigure] をクリックします。

ステップ 4 確認ダイアログボックスが表示されます。

[Yes] をクリックします。ファブリック インターコネクトが再起動し、すべてのトラフィックが停止します。

ステップ 5 成功メッセージが表示されます。

[OK] をクリックします。

ブレイクアウト ポートの設定解除

Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクットのブレイクアウト ポートを設定して 40 GB イーサネット ポートに戻す場合、または Cisco UCS 6400 ファブリック インターコネクットのブレイクアウトポートを設定して 40/100 GB イーサネット ポートに戻す場合、最初に設定を解除する必要があります。



注意

ブレイクアウトポートの設定を解除すると、そのポートを流れているすべてのトラフィックが停止され、ファブリックインターコネクットを再起動することが必要になります。ポートの既存の構成はすべて消去されます。単一のトランザクションに必要なブレイクアウトポートについては、それらをすべて解除することをお勧めします。

手順

- ステップ 1 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] の順に展開します。
- ステップ 2 [General] タブで、物理表示領域のポートを右クリックし、[Unconfigure] を選択します。
- ステップ 3 確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。
ファブリック インターコネクットが再起動し、すべてのトラフィックが停止します。

統合ポート

ユニファイド ポートのビーコン LED

6200 シリーズ ファブリック インターコネクットの各ポートには、対応するビーコン LED があります。[Beacon LED] プロパティが設定されている場合は、ビーコン LED が点灯し、特定のポートモードに設定されているポートが示されます。

[Beacon LED] プロパティは、特定のポートモード（イーサネットまたはファイバチャネル）にグループ化されているポートを示すように設定できます。デフォルトでは、ビーコン LED プロパティは Off に設定されます。



- (注) 拡張モジュールのユニファイドポートの場合、[Beacon LED] プロパティは、拡張モジュールの再起動時にデフォルト値の [Off] にリセットされます。

ユニファイドポートの設定に関するガイドライン

ユニファイドポートを設定する際は、次のガイドラインおよび制約事項を考慮してください。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

ユニファイドポートは、次でサポートされます。

- Cisco UCS Manager リリース 4.1 および以降のリリースを使用している Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクタ
- Cisco UCS Manager リリース 4.0 以降のリリースの Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect
- Cisco UCS Manager リリース 3.1 以降のリリースの UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクタ
- Cisco UCS Manager リリース 2.0 以降のリリースの UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタ
- Cisco UCS Manager リリース 3.0 以降のリリースの UCS 6324 シリーズ ファブリック インターコネクタ

ユニファイドポートは 6100 シリーズ ファブリック インターコネクタではサポートされません。それらで Cisco UCS Manager バージョン 2.0 が実行されている場合でも同様です。

ポートモードの配置

Cisco UCS Manager GUI インターフェイスは固定または拡張モジュールのユニファイドポートのポートモードの設定に、スライダーを使用するため、ポートモードのユニファイドポートへの割り当て方法を制限する次の制約事項が自動的に適用されます。Cisco UCS Manager CLI インターフェイスを使用する場合は、トランザクションをシステム設定にコミットするときに次の制約事項が適用されます。ポートモードの設定が次の制約事項のいずれかに違反している場合、Cisco UCS Manager CLI によってエラーが表示されます。

- イーサネットポートはブロックにグループ化する必要があります。各モジュール（固定または拡張）において、イーサネットポートブロックは、1番目のポートから始まり、偶数番号のポートで終わる必要があります。
- ファイバチャネルポートはブロックにグループ化する必要があります。各モジュール（固定または拡張）において、ファイバチャネルポートブロックは、最後のイーサネットポートの後ろにブロックの1番目のポートが続き、その後ろにモジュール内の残りのポートが含まれている必要があります。ファイバチャネルポートだけを含ま設定では、ファイバチャネルブロックは、固定または拡張モジュールの1番目のポートから開始する必要があります。



(注) Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネク トでは、ユニファイドポート機能が最初の16ポートに制限されます。ポート 1/1-1/16 のみ FC として設定できます。FC ポートは互いに連続している必要があり、その後に連続的なイーサネットポートが続く必要があります。

- イーサネットポートとファイバチャンネルポートの交替は、単一モジュール上ではサポートされない。

有効な設定例：イーサネットポートモードに設定された固定モジュールにユニファイドポート 1～16 を含み、ファイバチャンネルポートモードにポート 17～32 を含む。拡張モジュールでは、ポート 1～4 をイーサネットポートモードに設定し、ポート 5～16 をファイバチャンネルモードに設定できます。このポート割り当ては各個別モジュールの規則に準拠しているため、ポートタイプ（イーサネットポートとファイバチャンネルポート）の交替に関する規則に違反していません。

無効な設定例：ポート 16 から始まるファイバチャンネルポートのブロックが含まれている。ポートの各ブロックは奇数ポートから開始する必要があるため、ポート 17 からブロックを開始しなければなりません。



(注) 各ファブリック インターコネク トで設定可能なアップリンク イーサネットポートおよびアップリンク イーサネットポートチャンネルメンバの総数は、最大 31 に制限されています。この制限には、拡張モジュールで設定されるアップリンク イーサネットポートおよびアップリンク イーサネットポートチャンネルメンバも含まれます。

ユニファイドアップリンクポートおよびユニファイドストレージポートに関する注意およびガイドライン

以下は、ユニファイドアップリンクポートとユニファイドストレージポートを使用する際に従うべき注意事項とガイドラインです。

- ユニファイドアップリンクポートでは、SPAN 送信元として1つのコンポーネントを有効にすると、他のコンポーネントが自動的にSPAN 送信元になります。



(注) イーサネットアップリンクポートでSPAN 送信元が作成または削除されると、Cisco UCS Manager は自動的にFCoE アップリンクポートでSPAN 送信元を作成または削除します。FCoE アップリンクポートでSPAN 送信元を作成する場合も同じことが起こります。

- FCoE およびユニファイド アップリンク ポートでデフォルトでないネイティブ VLAN を設定する必要があります。この VLAN はトラフィックには使用されません。Cisco UCS Manager はこの目的のために、既存の `fcoe-storage-native-vlan` を再利用します。この `fcoe-storage-native-vlan` は、FCoE およびユニファイド アップリンクでネイティブ VLAN として使用されます。
- ユニファイド アップリンク ポートでは、イーサネット アップリンク ポートにデフォルトでない VLAN を設定しないと、`fcoe-storage-native-vlan` がユニファイド アップリンク ポートのネイティブ VLAN として割り当てられます。イーサネット ポートにネイティブ VLAN として指定されているデフォルトでないネイティブ VLAN がある場合、ユニファイド アップリンク ポートのネイティブ VLAN としてこれが割り当てられます。
- イーサネット ポート チャンネル下でメンバ ポートを作成または削除すると、Cisco UCS Manager は FCoE ポート チャンネル下で自動的にメンバ ポートを作成または削除します。FCoE ポート チャンネルでメンバー ポートを作成または削除する場合も同じことが起こりません。
- サーバ ポート、イーサネット アップリンク、FCoE アップリンクまたは FCoE ストレージなどのスタンドアロン ポートとしてイーサネット ポートを設定し、それをイーサネットまたは FCoE ポート チャンネルのメンバ ポートにすると、Cisco UCS Manager は自動的にこのポートをイーサネットと FCoE ポート チャンネル両方のメンバにします。
- サーバ アップリンク、イーサネット アップリンク、FCoE アップリンクまたは FCoE ストレージのメンバからメンバ ポートのメンバーシップを削除すると、Cisco UCS Manager はイーサネット ポート チャンネルと FCoE ポート チャンネルから対応するメンバ ポートを削除し、新しいスタンドアロン ポートを作成します。
- Cisco UCS Manager をリリース 2.1 から以前のリリースにダウングレードする場合は、ダウングレードが完了すると、すべてのユニファイド アップリンク ポートとポート チャンネルがイーサネット ポートとイーサネット ポート チャンネルに変換されます。同様に、すべてのユニファイド ストレージ ポートが、アプライアンス ポートに変換されます。
- ユニファイド アップリンク ポートとユニファイド ストレージ ポートの場合、2 つのインターフェイスを作成するときは、1 つだけライセンスがチェックされます。どちらかのインターフェイスが有効な限り、ライセンスはチェックされたままになります。両方のインターフェイスがユニファイド アップリンク ポートまたはユニファイド ストレージ ポートでディセーブルの場合にのみライセンスが解放されます。
- Cisco UCS 6100 シリーズ ファブリック インターコネクト スイッチは、同一のダウンストリーム NPV スイッチ側の 1VF または 1VF-PO のみをサポートできます。

ユニファイド ポートのビーコン LED の設定

ビーコン LED を設定する各モジュールについて次のタスクを実行します。

手順

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 ビーコン LED を設定するユニファイド ポートの場所に応じて、次のいずれかをクリックします。
- [Fixed Module]
 - Expansion Module
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Properties] 領域で、[Beacon LED] フィールドの次のオプション ボタンの 1 つをクリックします。
- [Off] : すべての物理 LED が消灯。
 - [Eth] : すべてのイーサネット ポートの横にある物理 LED が点灯。
 - [Fc] : すべてのファイバ チャネル ポートの横にある物理 LED が点灯。
- ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。
-

ポートモードの変更

ポートモードの変更のデータ トラフィックへの影響

ポートモードの変更は、Cisco UCS ドメイン へのデータ トラフィックの中断を引き起こす場合があります。中断の長さや影響を受けるトラフィックは、ポートモード変更を行ったモジュールおよび Cisco UCS ドメイン の設定に依存します。



ヒント システム変更中のトラフィックの中断を最小限にするには、固定と拡張モジュールにファイバチャネルアップリンク ポートチャネルを形成します。

ポートモード変更の拡張モジュールへの影響

拡張モジュールのポートモードの変更後、モジュールを再起動します。拡張モジュールのポートを通過するすべてのトラフィックは、モジュールのリブート中に約 1 分間中断します。

ポートモード変更のクラスタ設定の固定モジュールへの影響

クラスタ設定には 2 個のファブリック インターコネクタがあります。固定モジュールへのポート変更を行った後、ファブリック インターコネクタはリブートします。データ トラフィック

の影響は、1つのファブリック インターコネクットに障害が発生したときにもう一方にフェールオーバーするようサーバ vNIC を設定したかどうかによって左右されます。

1つのファブリック インターコネクットの拡張モジュール上のポート モードを変更し、第2のファブリック インターコネクットのポート モードを変更する前のリブートを待つ場合、次のことが発生します。

- サーバ vNIC のフェールオーバーでは、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、中断は発生しません。
- サーバ vNIC のフェールオーバーがない場合、ポート モードを変更したファブリック インターコネクットを通過するすべてのデータ トラフィックは、ファブリック インターコネクットがリブートする約 8 分間中断されます。

両方のファブリック インターコネクットの固定モジュールのポート モードを同時に変更すると、ファブリック インターコネクットによるすべてのデータ トラフィックが、ファブリック インターコネクットがリブートする約 8 分間中断されます。

ポート モード変更のスタンドアロン設定の固定モジュールへの影響

スタンドアロン設定にはファブリック インターコネクットが1つだけあります。固定モジュールへのポート変更を行った後、ファブリック インターコネクットはリブートします。ファブリック インターコネクットによるすべてのデータ トラフィックは、ファブリック インターコネクットがリブートする約 8 分間中断されます。

64108 ファブリック インターコネクットのポート モードの設定

UCS 64108 ファブリック インターコネクットでは、最初の 16 ポートはユニファイドポートであり、次の方法のいずれかで 4 または 8 ポートのグループの FC ポートとして設定可能です。

- 最初の 4 ポート：ファブリック インターコネクットのポート 1～4
- 最初の 8 ポート：ファブリック インターコネクットのポート 1～8



注意 いずれかのモジュールのポート モードを変更すると、データ トラフィックが中断されることがあります。これは、固定モジュールを変更するとファブリック インターコネクットのリブートが必要となり、拡張モジュールを変更するとそのモジュールのリブートが必要となるためです。

Cisco UCS ドメインに、ハイアベイラビリティ用に設定されたクラスタ構成が存在し、フェールオーバー用に設定されたサービスプロファイルを持つサーバが存在する場合、固定モジュールのポート モードを変更しても、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、データ トラフィックは中断されません。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、[Configure Unified Ports] をクリックします。
- ステップ 5 確認メッセージを確認し、次のいずれかをクリックします。
 - [Yes] : ポート モードの設定を続行します。
 - [No] : ポート モードを設定せずに終了し、適切なメンテナンス ウィンドウを待ちます。
- ステップ 6 [Configure Unified Ports] ダイアログボックスで、マウスを使用して、モジュールに必要なポートモードの設定が表示されるまでバーに沿って左から右にスライダをドラッグします。
以前設定されたポートのポートモードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。
- ステップ 7 他のモジュールのポートモードを設定する必要がある場合は、ステップ 5 と 6 を繰り返します。
- ステップ 8 ポートモードの設定を保存するには、[Finish] をクリックします。
ファブリック インターコネク트가リブートします。そのファブリック インターコネクつを経由するすべてのデータトラフィックが中断されます。ハイアベイラビリティが提供され、フェールオーバー用に設定されたvNICがあるサーバが含まれるクラスタ設定で発生した場合、トラフィックは他のファブリック インターコネクつにフェールオーバーし、中断は発生しません。

次のタスク

ポートのポートタイプを設定します。スライダの上に表示されるモジュールの任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポートタイプを設定できます。

6454 ファブリック インターコネクットのポート モードの設定

6454 ファブリック インターコネクつでは、最初の 16 ポートはユニファイドポートであり、次の方法のいずれかで 4 または 8 ポートのグループの FC ポートとして設定可能です。

- 最初の 4 ポート : ファブリック インターコネクつのポート 1~4
- 最初の 8 ポート : ファブリック インターコネクつのポート 1~8



注意 いずれかのモジュールのポートモードを変更すると、データトラフィックが中断されることがあります。これは、固定モジュールを変更するとファブリックインターコネクットのリポートが必要となり、拡張モジュールを変更するとそのモジュールのリポートが必要となるためです。

Cisco UCS ドメインに、ハイアベイラビリティ用に設定されたクラスタ構成が存在し、フェールオーバー用に設定されたサービスプロファイルを持つサーバが存在する場合、固定モジュールのポートモードを変更しても、トラフィックは他のファブリックインターコネクットにフェールオーバーし、データトラフィックは中断されません。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric Interconnect Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、[Configure Unified Ports] をクリックします。

ステップ 5 確認メッセージを確認し、次のいずれかをクリックします。

- [Yes] : ポートモードの設定を続行します。
- [No] : ポートモードを設定せずに終了し、適切なメンテナンス ウィンドウを待ちます。

ステップ 6 [Configure Unified Ports] ダイアログボックスで、マウスを使用して、モジュールに必要なポートモードの設定が表示されるまでバーに沿って左から右にスライダをドラッグします。

以前設定されたポートのポートモードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。

ステップ 7 他のモジュールのポートモードを設定する必要がある場合は、ステップ 5 と 6 を繰り返します。

ステップ 8 ポートモードの設定を保存するには、[Finish] をクリックします。

ファブリック インターコネクットがリポートします。そのファブリック インターコネクットを経由するすべてのデータトラフィックが中断されます。ハイアベイラビリティが提供され、フェールオーバー用に設定された vNIC があるサーバが含まれるクラスタ設定で発生した場合、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、中断は発生しません。

次のタスク

ポートのポートタイプを設定します。スライダの上に表示されるモジュールの任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポートタイプを設定できます。

6332-16UP ファブリック インターコネクットのポート モードの設定

6332 16UP ファブリック インターコネクットでは、最初の 16 ポートはユニファイド ポートであり、6 個のポート グループで FC ポートとして設定できます。



注意 いずれかのモジュールのポート モードを変更すると、データ トラフィックが中断されることがあります。これは、固定モジュールを変更するとファブリック インターコネクットのリブートが必要となり、拡張モジュールを変更するとそのモジュールのリブートが必要となるためです。

Cisco UCS ドメインに、ハイアベイラビリティ用に設定されたクラスタ構成が存在し、フェールオーバー用に設定されたサービスプロファイルを持つサーバが存在する場合、固定モジュールのポート モードを変更しても、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、データ トラフィックは中断されません。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、[Configure Unified Ports] をクリックします。

ステップ 5 確認メッセージを確認し、次のいずれかをクリックします。

- [Yes] : ポート モードの設定を続行します。
- [No] : ポート モードを設定せずに終了し、適切なメンテナンス ウィンドウを待ちます。

ステップ 6 [Configure Unified Ports] ダイアログボックスで、マウスを使用して、モジュールに必要なポート モードの設定が表示されるまでバーに沿って左から右にスライダをドラッグします。

以前設定されたポートのポート モードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。

ステップ 7 他のモジュールのポート モードを設定する必要がある場合は、ステップ 5 と 6 を繰り返します。

ステップ 8 ポート モードの設定を保存するには、[Finish] をクリックします。

ファブリック インターコネクットがリブートします。そのファブリック インターコネクットを経由するすべてのデータ トラフィックが中断されます。ハイアベイラビリティが提供され、フェールオーバー用に設定された vNIC があるサーバが含まれるクラスタ設定で発生した場合、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、中断は発生しません。

次のタスク

ポートのポートタイプを設定します。スライダの上に表示されるモジュールの任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポートタイプを設定できます。

6324 ファブリック インターコネクットのポート モードの設定



注意 いずれかのモジュールのポートモードを変更すると、データトラフィックが中断されることがあります。これは、固定モジュールを変更するとファブリックインターコネクットのリポートが必要となり、拡張モジュールを変更するとそのモジュールのリポートが必要となるためです。

Cisco UCS ドメインに、ハイアベイラビリティ用に設定されたクラスタ構成が存在し、フェールオーバー用に設定されたサービスプロファイルを持つサーバが存在する場合、固定モジュールのポートモードを変更しても、トラフィックは他のファブリックインターコネクットにフェールオーバーし、データトラフィックは中断されません。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、[Configure Unified Ports] をクリックします。
- ステップ 5 確認メッセージを確認し、次のいずれかをクリックします。
 - [Yes] : ポートモードの設定を続行します。
 - [No] : ポートモードを設定せずに終了し、適切なメンテナンスウィンドウを待ちます。
- ステップ 6 [Configure Fixed Module Port] ダイアログボックスで、マウスを使用して、モジュールに必要なポートモードの設定が表示されるまでバーに沿ってスライダをドラッグします。
以前設定されたポートのポートモードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。
- ステップ 7 他のモジュールのポートモードを設定する必要がある場合は、ステップ 5 と 6 を繰り返します。
- ステップ 8 ポートモードの設定を保存するには、[Finish] をクリックします。
ファブリックインターコネクットがリポートします。そのファブリックインターコネクットを経由するすべてのデータトラフィックが中断されます。ハイアベイラビリティが提供され、フェールオーバー用に設定された vNIC があるサーバが含まれるクラスタ設定で発生した場合、トラフィックは他のファブリックインターコネクットにフェールオーバーし、中断は発生しません。

次のタスク

ポートのポートタイプを設定します。スライダの上に表示されるモジュールの任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポートタイプを設定できます。

6248 ファブリック インターコネクットのポート モードの設定



注意

いずれかのモジュールのポートモードを変更すると、データトラフィックが中断されることがあります。これは、固定モジュールを変更するとファブリックインターコネクットのリブートが必要となり、拡張モジュールを変更するとそのモジュールのリブートが必要となるためです。

Cisco UCS ドメインに、ハイアベイラビリティ用に設定されたクラスタ構成が存在し、フェールオーバー用に設定されたサービスプロファイルを持つサーバが存在する場合、固定モジュールのポートモードを変更しても、トラフィックは他のファブリックインターコネクットにフェールオーバーし、データトラフィックは中断されません。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、[Configure Unified Ports] をクリックします。

ステップ 5 確認メッセージを確認し、次のいずれかをクリックします。

- [Yes] : ポートモードの設定を続行します。
- [No] : ポートモードを設定せずに終了し、適切なメンテナンスウィンドウを待ちます。

ステップ 6 ポートモードを設定するモジュールを選択するには、次のボタンの1つをクリックします。

- [Configure Fixed Module]
- [Configure Expansion Module]

ステップ 7 マウスを使用して、モジュールに必要なポートモード設定が表示されるまで、バーに沿ってスライダをドラッグします。

以前設定されたポートのポートモードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。

ステップ 8 他のモジュールのポートモードを設定する必要がある場合は、ステップ 6 と 7 を繰り返します。

ステップ 9 ポートモードの設定を保存するには、[Finish] をクリックします。

ポートモードを設定したモジュールに応じて、Cisco UCS ドメインのデータトラフィックが次のように中断されます。

- 固定モジュール：ファブリック インターコネクットがリブートします。そのファブリック インターコネクットを経由するすべてのデータ トラフィックが中断されます。ハイ アベイラビリティが提供され、フェールオーバー用に設定された vNIC があるサーバが含まれるクラスタ構成では、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、中断は発生しません。

固定モジュールがリブートするまで約 8 分かかります。

- 拡張モジュール：モジュールがリブートします。そのモジュールのポートを経由するすべてのデータ トラフィックが中断されます。

拡張モジュールがリブートするまでに約 1 分かかります。

次のタスク

ポートのポートタイプを設定します。スライドの上に表示されるモジュールの任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポート タイプを設定できます。

6296 ファブリック インターコネクットのポート モードの設定



注意 いずれかのモジュールのポート モードを変更すると、データ トラフィックが中断されることがあります。これは、固定モジュールを変更するとファブリック インターコネクットのリブートが必要となり、拡張モジュールを変更するとそのモジュールのリブートが必要となるためです。

Cisco UCS ドメインに、ハイ アベイラビリティ用に設定されたクラスタ構成が存在し、フェールオーバー用に設定されたサービスプロファイルを持つサーバが存在する場合、固定モジュールのポートモードを変更しても、トラフィックは他のファブリック インターコネクットにフェールオーバーし、データ トラフィックは中断されません。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、[Configure Unified Ports] をクリックします。

ステップ 5 確認メッセージを確認し、次のいずれかをクリックします。

- [Yes]：[Configure Unified Ports] ウィザードを開いてポート モードの設定を続行します。
- [No]：ポートモードを設定せずに終了し、適切なメンテナンス ウィンドウを待ちます。

ステップ 6 [Configure Fixed Module Ports] ページで、次の手順を実行します。

- a) マウスを使用して、固定モジュールに必要なポートモード設定が表示されるまで、バーに沿ってスライダをドラッグします。
- b) ポートのポートタイプを設定する場合は、スライダの上のモジュール表示の任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポートタイプを設定します。
- c) 次のいずれかを実行します。
 - 拡張モジュール1のポートのポートモードを設定するには、[Next]をクリックします。
 - 拡張モジュールのポートのポートモードを設定しない場合は、ステップ9に進みます。

以前設定されたポートのポートモードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。

ステップ7 [Configure Expansion Module 1 Ports] ページで、次の手順を実行します。

- a) マウスを使用して、拡張モジュールに必要なポートモード設定が表示されるまでバーに沿ってスライダをドラッグします。
- b) ポートのポートタイプを設定する場合は、スライダの上のモジュール表示の任意のポートで右クリックして、そのポートに使用可能なポートタイプを設定します。
- c) 次のいずれかを実行します。
 - 拡張モジュール2のポートのポートモードを設定するには、[Next]をクリックします。
 - 残りの拡張モジュールのポートのポートモードを設定しない場合は、ステップ9に進みます。

以前設定されたポートのポートモードを変更すると、ポートは未設定の状態に戻ります。

ステップ8 拡張モジュール3のポートのポートモードを設定する必要がある場合は、ステップ7を繰り返します。

ステップ9 ポートモードの設定を保存するには、[Finish]をクリックします。

ポートモードを設定したモジュールに応じて、Cisco UCS ドメインのデータトラフィックが次のように中断されます。

- 固定モジュール：ファブリック インターコネク트가リブートします。そのファブリック インターコネク트를経由するすべてのデータトラフィックが中断されます。ハイアベイラビリティが提供され、フェールオーバー用に設定されたvNICがあるサーバが含まれるクラスタ構成では、トラフィックは他のファブリック インターコネク트에フェールオーバーし、中断は発生しません。

固定モジュールがリブートするまで約8分かかります。

- 拡張モジュール：モジュールがリブートします。そのモジュールのポートを経由するすべてのデータトラフィックが中断されます。

拡張モジュールがリブートするまでに約1分かかります。

ファブリック インターコネクットのポートの再設定

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ3 再設定するポートのノードを展開します。
- ステップ4 再設定するポートを1つ以上クリックします。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ7 ドロップダウン リストからポートの再設定方法を選択します。

例：アップリンク イーサネット ポートをサーバポートとして再設定する

1. [Ethernet Ports] ノードを展開し、再設定するポートを選択します。
2. 上記のステップ5および6を実行します。
3. ドロップダウン リストから [Configure as Server Port] を選択します。

ファブリック インターコネクットのポートのイネーブル化またはディセーブル化

ファブリック インターコネクット上でポートを有効または無効にした後、1分以上待ってからシャーシを再認識させます。シャーシを再認識させるのが早すぎると、シャーシからのサーバトラフィックのピン接続が、有効または無効にしたポートに対する変更を使用して更新されないことがあります。

ポートが設定されている場合にのみ、イネーブルまたはディセーブルにできます。ポートが未設定の場合は、イネーブルとディセーブルのオプションはアクティブではありません。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

- ステップ3 イネーブルまたはディセーブルにするポートのノードを展開します。
- ステップ4 [Ethernet Ports] ノードで、ポートを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Enable Port] または [Disable Port] をクリックします。
- ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ8 [OK] をクリックします。

ファブリック インターコネクットのポート設定解除

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ3 設定を解除するポートのノードを展開します。
- ステップ4 [Ethernet Ports] ノードで、ポートを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Unconfigure] をクリックします。
- ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ8 [OK] をクリックします。

サーバポート

ファブリック インターコネクットのサーバポートの自動設定

Cisco UCS Manager リリース 3.1(3) 以降では、ファブリック インターコネクットのサーバポートを自動設定できます。サーバポートの自動検出ポリシーは、新しいラックサーバ、シャーシ、FEXが追加された際のシステム対応を決定します。ポリシーを有効にすると、Cisco UCS Manager はスイッチポートに接続されたデバイスのタイプを自動的に特定し、それに応じてスイッチポートを設定します。



- (注) Cisco UCSC シリーズのアプライアンスを UCS Manager から管理しない場合は、VIC ポートをファブリック インターコネクットに接続する前にアプライアンスポートをCisco UCS事前設定します。

サーバポートの自動設定

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Policies] > [Port Auto-Discovery Policy] を展開します。

ステップ 3 [Port Auto-Discovery Policy] のアクションエリアでは、デフォルトでポリシーは、[Local] に設定されています。ポリシーは Cisco UCS Manager によって特定され、管理されます。この場合、[Use Global] が Cisco UCS Manager で表示されます。

ポートの自動検出ポリシーを Cisco UCS Central によって管理するためには、『[Cisco UCS Manager Server Management Guide](#)』の「*Cisco UCS Manager Server Administration Guide*」を参照してください。

ステップ 4 [Properties] エリアで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Owner] フィールド	ローカルに設定すると、ポリシーは Cisco UCS Manager によって特定され、管理されます。グローバルに設定すると、ポリシーは Cisco UCS Central によって特定され、管理されます。
サーバポートの自動設定	<ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : Cisco UCS Manager は、自動的にスイッチポートに接続されているサーバのタイプを特定し適切にスイッチポートを設定します。 • [Disabled] : ファブリックインターコネクットのサーバポートの自動設定を無効にします。

サーバポートの設定

リストされているすべてのポートタイプは、サーバポートを含め、固定モジュールと拡張モジュールの両方で設定可能です。

このタスクでは、ポートの設定方法を1つだけ説明します。右クリックメニューから、または LAN アップリンク マネージャでも設定できます。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] の順に展開します。

- ステップ3 [Ethernet Ports] ノードの下のポートをクリックします。
- ステップ4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ6 ドロップダウン リストから [Configure as Server Port] を選択します。

アップリンク イーサネット ポート

アップリンク イーサネット ポートの設定

固定モジュールまたは拡張モジュールのアップリンク イーサネット ポートを設定できます。

このタスクでは、アップリンク イーサネット ポートの設定方法を1つだけ説明します。右クリック メニューからもアップリンク イーサネット ポートを設定できます。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ3 設定するポートのノードを展開します。
- ステップ4 [Ethernet Ports] ノード下のポートの1つをクリックします。
サーバポート、アプライアンスのポート、または FCoE ストレージポートを再設定する場合は、適切なノードを展開します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ7 ドロップダウン リストから [Configure as Uplink Port] を選択します。

次のタスク

必要に応じて、アップリンク イーサネット ポートのデフォルトフロー制御ポリシーおよび管理速度のプロパティを変更します。

アップリンク イーサネット ポートのプロパティの変更

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric Interconnect Name] の順に展開します。

ステップ 3 設定するポートのノードを展開します。

ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードで、変更するアップリンク イーサネット ポートをクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で、[Show Interface] をクリックします。

ステップ 7 [Properties] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

- a) (任意) [User Label] フィールドに、ポートを識別するためのラベルを入力します。
- b) [Flow Control Policy] ドロップダウン リストからフロー制御ポリシーを選択し、受信バッファがいっぱいになった場合にポートが IEEE 802.3x ポーズ フレームを送受信する方法を決定します。
- c) [Admin Speed] フィールドで、次のオプション ボタンの 1 つをクリックします。
 - 1 Gbps
 - 10 Gbps
 - 25 Gbps
 - 40 Gbps
 - 100 Gbps

(注) Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクタに対してのみ、ポート 1~48 に 25 Gbps を選択できます。40 Gbps および 100 Gbps の速度は、Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクタのポート 49 ~ 54 専用です。

Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクタに対してのみ、ポート 1~96 に 25 Gbps を選択できます。40 Gbps および 100 Gbps の速度は、Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクタのポート 97 ~ 108 専用です。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

転送エラー修正のためのイーサネット ポートの設定

25 Gbps および 100 Gbps 速度で動作するトランシーバモジュールに対して、アップリンク イーサネット ポート、イーサネット アプライアンス、FCoE アップリンクの転送エラー修正 (FEC) を設定できます。

表 1: FEC CL-74 および FEC CL-91 サポート マトリックス

Port Speed	FEC CL-74	FEC CL-91
1 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
10 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
25 Gbps	サポート対象	サポート対象

Port Speed	FEC CL-74	FEC CL-91
40 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
100 Gbps	サポート対象外	サポートあり
自動	装着されたトランシーバの最大サポート速度に基づく	装着されたトランシーバの最大サポート速度に基づく

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 設定するポートのノードを展開します。
- ステップ 4 [Ethernet Ports] ノード下のポートの 1 つをクリックします。

サーバポート、アプライアンスのポート、または FCoE ストレージポートを再設定する場合は、適切なノードを展開します。

- ステップ 5 [Show Interface] を選択します。
- ステップ 6 [Uplink Eth Interface] または [Uplink FCoE Interface] を選択します。
- ステップ 7 転送エラー修正モードに [Auto]、[CL74]、または [CL91] を選択します。
- ステップ 8 [OK] をクリックします。

これにより、イーサネットアップリンクポートの自動、cl74、または cl91 として転送エラー修正設定を設定します。UCS 6400 シリーズファブリックインターコネクタについては、転送エラー修正は 25 Gbps または 100 Gbps ポート速度にのみ設定可能です。

アプライアンス ポート

アプライアンスポートは、直接接続された NFS ストレージにファブリックインターコネクタを接続する目的のみに使用されます。



- (注) ダウンロードするファームウェア実行可能ファイルの名前。したがって、新しい VLAN に設定されたアプライアンスポートは、ピン接続エラーにより、デフォルトで停止したままになります。これらのアプライアンスポートを起動するには、同じ IEEE VLAN ID を使用して LAN クラウドで VLAN を設定する必要があります。

Cisco UCS Manager は、ファブリックインターコネクタごとに最大 4 つのアプライアンスポートをサポートします。

アプライアンス ポートの設定

アプライアンス ポートは、固定モジュールと拡張モジュールのどちらにも設定できます。

このタスクでは、アプライアンス ポートの設定方法を 1 つだけ説明します。[General] タブからアプライアンス ポートを設定することもできます。



- (注) アップリンク ポートがダウンしているときにアプライアンスを設定すると、Cisco UCS Manager はアプライアンス ポートに障害が発生していることを通知するエラー メッセージを表示する場合があります。このメッセージは、関連するネットワーク制御ポリシーの [Action on Uplink Fail] オプションで制御されます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric Interconnect Name] の順に展開します。
- ステップ 3 設定するポートのノードを展開します。
- ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードで、ポートを選択します。
サーバポート、アップリンク イーサネット ポート、または FCoE ストレージ ポートを再設定する場合は、適切なノードを展開します。
- ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 6 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ 7 ドロップダウンリストから、[Configure as Appliance Port] をクリックします。
- ステップ 8 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 9 [Configure as Appliance Port] ダイアログ ボックスで、必須フィールドに入力します。
- ステップ 10 [VLANs] 領域で、次の手順を実行します。
 - a) フィールドで、次のオプション ボタンの 1 つをクリックしてポート チャンネルで使用するモードを選択します。
 - **[Trunk]** : Cisco UCS Manager GUI に VLAN テーブルが表示され、使用する VLAN を選択することができます。
 - **[Access]** : Cisco UCS Manager GUI に **[Select VLAN]** ドロップダウンリストが表示され、このポートまたはポート チャンネルに関連付ける VLAN を選択できます。

いずれかのモードで、[Create VLAN] リンクをクリックして、新しい VLAN を作成できます。

(注) アプリケーションポートでアップリンクポートをトラバースする必要がある場合、LAN クラウドでこのポートによって使用される各 VLAN も定義する必要があります。たとえば、ストレージが他のサーバでも使用される場合や、プライマリ ファブリック インターコネクットのストレージコントローラに障害が発生したときにトラフィックがセカンダリ ファブリック インターコネクットに確実にフェールオーバーされるようにする必要がある場合は、トラフィックでアップリンクポートをトラバースする必要があります。

- b) [Trunk] オプション ボタンをクリックした場合は、VLAN テーブルの必須フィールドに入力します。
- c) [Access] オプション ボタンをクリックした場合は、[Select VLAN] ドロップダウン リストから VLAN を選択します。

ステップ 11 (任意) エンドポイントを追加する場合は、[Ethernet Target Endpoint] チェックボックスをオンにし、名前と MAC アドレスを指定します。

ステップ 12 [OK] をクリックします。

アプライアンス ポートのプロパティの変更

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 変更するアプライアンス ポートのノードを展開します。

ステップ 4 [Ethernet Ports] を展開します。

ステップ 5 プロパティを変更するアプライアンス ポートをクリックします。

ステップ 6 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 7 [Actions] 領域で、[Show Interface] をクリックします。

すべてのフィールドを表示するには、ペインを展開するか、[Properties] ダイアログボックスのスクロールバーを使用することが必要になる場合があります。

ステップ 8 [Properties] ダイアログボックスで、必要に応じて値を変更します。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

転送エラー修正のためのアプライアンス ポートの設定

この機能をサポートする 25 Gbps および 100 Gbps 速度で動作するアプライアンスポートに対して、転送エラー修正 (FEC) を設定できます。

表 2: FEC CL-74 および FEC CL-91 サポート マトリックス

Port Speed	FEC CL-74	FEC CL-91
1 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
10 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
25 Gbps	サポート対象	サポート対象
40 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
100 Gbps	サポート対象外	サポートあり
自動	装着されたトランシーバの最大サポート速度に基づく	装着されたトランシーバの最大サポート速度に基づく

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope eth-storage	イーサネットストレージモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-storage # scope fabric a b	指定したファブリックのイーサネットストレージファブリックモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-storage/fabric # scope interface slot-id port-id	指定したインターフェイスのイーサネットインターフェイスモードを開始します。
ステップ 4	必須: UCS-A /eth-storage/fabric # set fec {auto cl74 cl91}	イーサネットアプライアンスポートの自動、cl74、または cl91 として転送エラー修正設定を設定します。UCS 6400 シリーズファブリックインターコネクタについては、転送エラー修正は 25 Gbps または 100 Gbps ポート速度にのみ設定可能です。
ステップ 5	UCS-A /eth-storage/fabric # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ファブリック A のスロット 1 のイーサネットアプライアンスポート 17 上で転送エラー修正 cl74 を有効にし、トランザクションをコミットする方法を示します。


```
UCS-A# scope eth-storage
UCS-A /eth-storage # scope fabric a
UCS-A /eth-storage/fabric # scope interface 1 17
UCS-A /eth-storage/fabric # set fec c174
UCS-A /eth-storage/fabric* # commit-buffer
UCS-A /eth-storage/fabric #
```

FCoE およびファイバチャネルストレージポート

イーサネットポートの FCoE ストレージポートとしての設定

FCoE ストレージポートは、固定モジュールと拡張モジュールのどちらにも設定できます。

このタスクでは、FCoE ストレージポートの設定方法を1種類だけ説明します。ポートの[General] タブから FCoE ストレージポートを設定することもできます。

始める前に

これらのポートが有効になるためには、ファイバチャネルスイッチングモードが [Switching] に設定されている必要があります。ストレージポートは、エンドホストモードでは動作しません。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 設定するポートの場所に応じて、次のいずれかを展開します。

- [Fixed Module]
- Expansion Module

ステップ 4 [Ethernet Ports] ノード以下の1つ以上のポートをクリックします。

アップリンクイーサネットポート、サーバポート、またはアプライアンスポートを再設定する場合は、適切なノードを展開します。

ステップ 5 選択したポートを右クリックし、[Configure as FCoE Storage Port] を選択します。

Cisco UCS 6454 Fabric InterconnectS、49 54 のポートは、FCoE ストレージポートとして設定することはできません。

Cisco UCS 64108 ファブリック インターコネクトでは、97-108 のポートは、FCoE ストレージポートとして設定することはできません。

ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ7 [OK] をクリックします。

ファイバチャネルストレージポートの設定

このタスクでは、FC ストレージポートの設定方法を1種類だけ説明します。そのポートの [General] タブから FC ストレージポートを設定することもできます。

始める前に

これらのポートが有効になるためには、ファイバチャネルスイッチングモードが [Switching] に設定されている必要があります。ストレージポートは、エンドホストモードでは動作しません。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
 - ステップ3 [Expansion Module] ノードを展開します。
 - ステップ4 [FC Ports] ノード以下の1つ以上のポートをクリックします。
 - ステップ5 選択したポートを右クリックし、[Configure as FC Storage Port] を選択します。
 - ステップ6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
 - ステップ7 [OK] をクリックします。
-

アップリンクファイバチャネルポートの復元

このタスクでは、アップリンク FC ポートとして動作する FC ストレージポートを復元する方法を1つだけ説明します。そのポートの [General] タブから FC ストレージポートを再設定することもできます。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ3 [Expansion Module] ノードを展開します。
- ステップ4 [FC Ports] ノード以下の1つ以上のポートをクリックします。
- ステップ5 選択した1つ以上のポートを右クリックし、[Configure as Uplink Port] を選択します。
- ステップ6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ7 [OK] をクリックします。

FC アップリンク ポートの設定

固定モジュールまたは拡張モジュールのいずれかに FC アップリンク ポートを設定できます。このタスクでは、FC アップリンク ポートの設定方法を1つだけ説明します。FC アップリンク ポートは、ポートの右クリック メニューから設定することもできます。



重要 Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクトの場合、FC アップリンク速度が 8 Gbps の場合は、アップリンク スイッチでフィル パターンを IDLE として設定します。フィル パターンが IDLE に設定されていない場合、8 Gbps で動作している FC アップリンクは errDisabled 状態になる、断続的に SYNC を失う、またはエラーや不良パケットに気付く可能性があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ3 設定するポートのノードを展開します。
- ステップ4 [FC Ports] ノードで、任意のストレージポートを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域から、[Configure as Uplink Port] を選択します。
- ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ8 Cisco UCS Manager GUI が成功のメッセージを表示します。

[Actions] 領域で、[Configure as Uplink Port] がグレーアウトして、[Configure as FC Storage Port] がアクティブになります。

転送エラー修正のための FCoE アップリンクの設定

25 Gbps、この機能をサポートしている 100 Gbps 速度で動作する FCoE アップリンク用前方誤り訂正 (FEC) を設定できます。

表 3: FEC CL-74 および FEC CL-91 サポート マトリックス

Port Speed	FEC CL-74	FEC CL-91
1 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
10 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
25 Gbps	サポート対象	サポート対象
40 Gbps	サポート対象外	サポート対象外
100 Gbps	サポート対象外	サポートあり
自動	装着されたトランシーバの最大サポート速度に基づく	装着されたトランシーバの最大サポート速度に基づく

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	FCoE アップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope fabric a b	指定したファブリックのファブリックモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/fabric # scope fcoeinterface slot-id port-id	指定したインターフェイスのイーサネットインターフェイスモードを開始します。
ステップ 4	必須: UCS-A /fc-uplink/fabric/fcoeinterface # set fec {auto cl74 cl91}	FCoE アップリンクの自動、cl74、または cl91 として転送エラー修正設定を設定します。UCS 6400 シリーズファブリック インターコネクタについては、転送エラー修正は 25 Gbps または 100 Gbps ポート速度にのみ設定可能です。
ステップ 5	UCS-A /fc-uplink/fabric/fcoeinterface # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ファブリック A のスロット 1 の FCoE アップリンク上で転送エラー修正 cl74 を有効にし、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope fabric a
UCS-A /fc-uplink/fabric # scope fcoeinterface 1 35
```

```
UCS-A /fc-uplink/fabric/fcoeinterface # set fec cl74
UCS-A /fc-uplink/fabric/fcoeinterface # commit-buffer
```

FCoE アップリンク ポート

FCoE アップリンク ポートは、FCoE トラフィックの伝送に使用される、ファブリック インターコネクトとアップストリーム イーサネット スイッチ間の物理イーサネット インターフェイスです。このサポートにより、同じ物理イーサネット ポートで、イーサネット トラフィックとファイバチャネル トラフィックの両方を伝送できます。

FCoE アップリンク ポートはファイバチャネル トラフィック用の FCoE プロトコルを使用してアップストリーム イーサネット スイッチに接続します。これにより、ファイバチャネル トラフィックとイーサネット トラフィックの両方が同じ物理イーサネット リンクに流れることができます。



(注) FCoE アップリンクとユニファイドアップリンクは、ユニファイドファブリックをディストリビューション レイヤ スイッチまで拡張することによりマルチホップ FCoE 機能を有効にします。

次のいずれかと同じイーサネット ポートを設定できます。

- [FCoE uplink port] : ファイバチャネル トラフィック専用の FCoE アップリンク ポートとして。
- [Uplink port] : イーサネット トラフィック専用のイーサネット ポートとして。
- [Unified uplink port] : イーサネットとファイバチャネル両方のトラフィックを伝送するユニファイドアップリンク ポートとして。

FCoE アップリンク ポートの設定

固定モジュールまたは拡張モジュールに FCoE アップリンク ポートを設定できます。

このタスクでは、FCoE アップリンク ポートの設定方法を 1 つだけ説明します。アップリンクイーサネット ポートは、右クリックメニュー、またはポートの [General] タブから設定することもできます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 設定するポートのノードを展開します。
- ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードの下、[Unconfigured] ポートを選択します。

- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ7 ドロップダウンオプションから、[Configure as FCoE Uplink Port] を選択します。
- ステップ8 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ9 Cisco UCS Manager GUI が成功のメッセージを表示します。
- [Properties] 領域で、[Role] が [FCoE Uplink] に変わります。

ユニファイドストレージポート

ユニファイドストレージでは、イーサネットストレージインターフェイスと FCoE ストレージインターフェイスの両方として同じ物理ポートを設定する必要があります。固定モジュールまたは拡張モジュールのユニファイドストレージポートとして、任意のアプライアンスポートまたは FCoE ストレージポートを設定できます。ユニファイドストレージポートを設定するには、ファブリックインターコネクトをファイバチャネルスイッチングモードにする必要があります。

ユニファイドストレージポートでは、個々の FCoE ストレージまたはアプライアンスインターフェイスをイネーブルまたはディセーブルにできます。

- ユニファイドストレージポートでは、アプライアンスポートにデフォルト以外の VLAN が指定されていない限り、`fcoe-storage-native-vlan` がユニファイドストレージポートのネイティブ VLAN として割り当てられます。アプライアンスポートにデフォルト以外のネイティブ VLAN がネイティブ VLAN として指定されている場合は、それがユニファイドストレージポートのネイティブ VLAN として割り当てられます。
- アプライアンスインターフェイスをイネーブルまたはディセーブルにすると、対応する物理ポートがイネーブルまたはディセーブルになります。したがって、ユニファイドストレージでアプライアンスインターフェイスをディセーブルにすると、FCoE ストレージが物理ポートとともにダウン状態になります (FCoE ストレージがイネーブルになっている場合でも同様です)。
- FCoE ストレージインターフェイスをイネーブルまたはディセーブルにすると、対応する VFC がイネーブルまたはディセーブルになります。したがって、ユニファイドストレージポートで FCoE ストレージインターフェイスをディセーブルにした場合、アプライアンスインターフェイスは正常に動作し続けます。

アプライアンスポートのユニファイドストレージポートとしての設定

アプライアンスポートまたは FCoE ストレージポートからユニファイドストレージポートを設定できます。未設定のポートからユニファイドストレージポートを設定することもできま

す。未設定ポートから開始する場合、アプライアンスの設定または FCoE ストレージの設定をポートに割り当てた後に、ユニファイドストレージポートとしてイネーブルにするために別の設定を追加します。



重要 ファブリック インターコネク트가ファイバチャネルスイッチングモードであることを確認します。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 設定するポートの場所に応じて、次のいずれかを展開します。

- [Fixed Module]
- Expansion Module

ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードの下で、すでにアプライアンスポートとして設定されているポートを選択します。

[Work (作業)] ペインの [General (全般)] タブの [Properties (プロパティ)] 領域で、[Role (役割)] が [Appliance Storage (アプライアンス ストレージ)] として表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。

ステップ 6 ポップアップメニューから、[Configure as FCoE Storage] ポートを選択します。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ 8 Cisco UCS Manager GUI に成功メッセージが表示されます。[Properties] 領域で、[Role] の表示が [Unified Storage] に変わります。

ユニファイドストレージポートの設定解除

ユニファイド接続ポートから両方の設定を解除して削除できます。または、いずれか一方を設定解除し、もう一方をポートに保持することができます。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 設定を解除するポートのノードを展開します。

ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードで、設定を解除するポートを選択します。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で、[Unconfigure] をクリックします。次のオプションが表示されます。

- [Unconfigure FCoE Storage Port]
- [Unconfigure Appliance Port]
- [Unconfigure both]

ステップ 7 設定解除オプションのいずれか 1 つを選択します。

ステップ 8 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ 9 Cisco UCS Manager GUI に成功メッセージが表示されます。選択した設定解除オプションに基づいて、[Properties] 領域の [Role] が変更されます。

ユニファイドアップリンク ポート

同じ物理イーサネット ポート上にイーサネット アップリンクと FCoE アップリンクを設定した場合、そのポートはユニファイドアップリンク ポートと呼ばれます。FCoE またはイーサネット インターフェイスは個別にイネーブルまたはディセーブルにできます。

- FCoE アップリンクをイネーブルまたはディセーブルにすると、対応する VFC がイネーブルまたはディセーブルになります。
- イーサネットアップリンクをイネーブルまたはディセーブルにすると、対応する物理ポートがイネーブルまたはディセーブルになります。

イーサネットアップリンクをディセーブルにすると、ユニファイドアップリンクを構成している物理ポートがディセーブルになります。したがって、FCoE アップリンクもダウンします（FCoE アップリンクがイネーブルになっている場合でも同様です）。しかし、FCoE アップリンクをディセーブルにした場合は、VFC だけがダウンします。イーサネットアップリンクがイネーブルであれば、FCoE アップリンクは引き続きユニファイドアップリンク ポートで正常に動作することができます。

ユニファイドアップリンク ポートの設定

次のいずれかから、ユニファイドアップリンク ポートを設定できます。

- 既存の FCoE アップリンク ポートまたはイーサネット アップリンク ポートから
- 未設定のアップリンク ポートから

固定モジュールまたは拡張モジュールのユニファイドアップリンク ポートを設定できます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 設定するポートのノードを展開します。
- ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードで、ポートを選択します。
- ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 6 [Properties] 領域で、[Role] が [FCoE Uplink] として表示されていることを確認します。
- ステップ 7 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ 8 ドロップダウン オプションから、[Configure as Uplink Port] を選択します。
- ステップ 9 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 10 Cisco UCS Manager GUI が成功のメッセージを表示します。
[Properties] 領域で、[Role] が [Unified Uplink] に変わります。

ユニファイドアップリンク ポートの設定解除

ユニファイドアップリンク ポートから両方の設定を解除して削除できます。または、FCoE ポート設定またはイーサネット ポート設定のいずれか一方を設定解除し、もう一方をポートに保持することができます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。
- ステップ 3 設定を解除するポートのノードを展開します。
- ステップ 4 [Ethernet Ports] ノードで、設定を解除するポートを選択します。
- ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 6 [Actions] 領域で、[Unconfigure] をクリックします。次のオプションのいずれかを選択します。
 - [Unconfigure FCoE Uplink Port]
 - [Unconfigure Uplink Port]
 - [Unconfigure both]
- ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 8 Cisco UCS Manager GUI に成功メッセージが表示されます。選択した設定解除オプションに基づいて、[Properties] 領域の [Role] が変更されます。

ステップ 9 [Save Changes] をクリックします。

アップリンク イーサネット ポート チャンネル

アップリンク イーサネット ポート チャンネルを使用すると、複数の物理アップリンク イーサネット ポートをグループ化して（リンク集約）、1つの論理イーサネットリンクを作成し、耐障害性と高速接続を実現できます。Cisco UCS Manager で、先にポート チャンネルを作成してから、そのポート チャンネルにアップリンク イーサネット ポートを追加します。1つのポート チャンネルには、最大 16 のアップリンク イーサネット ポートを追加できます。



重要 設定されたポートの状態は、次のシナリオで未設定に変更されます。

- ポートはポート チャンネルから削除されるか除去されます。ポート チャンネルはどのタイプでもかまいません（アップリンク、ストレージなど）。
- ポート チャンネルが削除されます。



(注) Cisco UCS では、Port Aggregation Protocol (PAgP) ではなく、Link Aggregation Control Protocol (LACP) を使用して、アップリンク イーサネット ポートがポート チャンネルにグループ化されます。アップストリームスイッチのポートがLACP用に設定されていない場合、ファブリック インターコネクトはアップリンク イーサネット ポート チャンネルの全ポートを個別のポートとして扱い、パケットを転送します。

アップリンク イーサネット ポート チャンネルの作成

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
- ステップ 2 [LAN] > [LAN Cloud] の順に展開します。
- ステップ 3 ポート チャンネルを追加するファブリック インターコネクトのノードを展開します。
- ステップ 4 [Port Channels] ノードを右クリックし、[Create Port Channel] を選択します。
- ステップ 5 [Set Port Channel Name] パネルで、ID と名前を指定し、[Next] をクリックします。
- ステップ 6 [Add Ports] パネルで、追加するポートを指定します。

- (注) Cisco UCS Manager では、サーバポートとして設定済みのポートを選択した場合、警告が表示されます。ダイアログボックスの [Yes] をクリックして、このポートをアップリンク イーサネット ポートとして再設定し、ポート チャネルに含めることができます。

ステップ 7 [完了 (Finish)] をクリックします。

アップリンク イーサネット ポート チャネルのイネーブル化

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
- ステップ 2** [LAN] > [LAN Cloud] の順に展開します。
- ステップ 3** イネーブルにするポート チャネルが含まれるファブリック インターコネクットのノードを展開します。
- ステップ 4** [Port Channels] ノードを展開します。
- ステップ 5** イネーブルにするポート チャネルを右クリックし、[Enable Port Channel] を選択します。
- ステップ 6** 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
-

アップリンク イーサネット ポート チャネルのディセーブル化

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
- ステップ 2** [LAN] > [LAN Cloud] の順に展開します。
- ステップ 3** ディセーブルにするポート チャネルが含まれるファブリック インターコネクットのノードを展開します。
- ステップ 4** [Port Channels] ノードを展開します。
- ステップ 5** ディセーブルにするポート チャネルを右クリックし、[Disable Port Channel] を選択します。
-

アップリンク イーサネット ポート チャンネルのポートの追加および削除

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。

ステップ 2 [LAN] > [LAN Cloud] > [Fabric] > [Port Channels] の順に展開します。

ステップ 3 ポートを追加または削除するポート チャンネルをクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Add Ports] をクリックします。

ステップ 6 [Add Ports] ダイアログ ボックスで、次のいずれかを実行します。

- ポートを追加するには、[Ports] テーブルで1つ以上のポートを選択し、[>>] ボタンをクリックして [Ports in the port channel] テーブルにポートを追加します。
- ポートを削除するには、[Ports in the port channel] テーブルで1つ以上のポートを選択し、[<<] ボタンをクリックしてポート チャンネルからポートを削除して [Ports] テーブルに追加します。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

アップリンク イーサネット ポート チャンネルの削除

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。

ステップ 2 [LAN] > [LAN Cloud] の順に展開します。

ステップ 3 ポート チャンネルを削除するファブリック インターコネクットのノードを展開します。

ステップ 4 [Port Channels] ノードをクリックします。

ステップ 5 [Port Channels] ノードの [General] タブで、削除するポート チャンネルを選択します。

ステップ 6 ポート チャンネルを右クリックし、[Delete] を選択します。

アプライアンス ポート チャンネル

アプライアンス ポート チャンネルを使用すると、複数の物理的なアプライアンス ポートをグループ化して1つの論理的なイーサネット ストレージリンクを作成し、耐障害性と高速接続を実現できます。Cisco UCS Manager において、先にポート チャンネルを作成してから、そのポート

チャンネルにアプライアンス ポートを追加します。1つのポートチャンネルには、最大で8個のアプライアンス ポートを追加できます。

アプライアンス ポート チャネルの作成

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
- ステップ 2 [LAN] > [Appliances] の順に展開します。
- ステップ 3 ポート チャネルを追加するファブリック インターコネクットのノードを展開します。
- ステップ 4 [Port Channels] ノードを右クリックし、[Create Port Channel] を選択します。
- ステップ 5 [Create Port Channel] ウィザードの [Set Port Channel Name] パネルで必須フィールドに入力し、ポートチャンネルの ID やその他のプロパティを指定します。

このパネルから LAN ピンググループ、ネットワーク制御ポリシーとフロー制御ポリシーを作成できます。
- ステップ 6 [VLANs] 領域で、VLAN の [Port Mode] およびその他の情報を指定します。

このパネルから VLAN を作成できます。
- ステップ 7 (任意) エンドポイントを追加する場合は、[Ethernet Target Endpoint] チェックボックスをオンにして名前と MAC アドレスを指定します。
- ステップ 8 [Next] をクリックします。
- ステップ 9 [Create Port Channel] ウィザードの [Add Ports] パネルで、追加するポートを指定します。

(注) Cisco UCS Manager 入力した設定によりサービス プロファイルまたはポート設定で問題が発生する場合は、警告が表示されます。これらの問題が発生する可能性があってもポートチャンネルを作成する場合は、ダイアログボックスで [Yes] をクリックできます。
- ステップ 10 [完了 (Finish)] をクリックします。

アプライアンス ポート チャネルのイネーブル化

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
- ステップ 2 [LAN] > [Appliances] の順に展開します。
- ステップ 3 イネーブルにするポートチャンネルが含まれるファブリック インターコネクットのノードを展開します。

- ステップ 4 [Port Channels] ノードを展開します。
 - ステップ 5 イネーブルにするポート チャンネルを右クリックし、[Enable Port Channel] を選択します。
 - ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
-

アプライアンス ポート チャンネルのディセーブル化

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
 - ステップ 2 [LAN] > [Appliances] の順に展開します。
 - ステップ 3 ディセーブルにするポート チャンネルが含まれるファブリック インターコネクットのノードを展開します。
 - ステップ 4 [Port Channels] ノードを展開します。
 - ステップ 5 ディセーブルにするポート チャンネルを右クリックし、[Disable Port Channel] を選択します。
 - ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
-

アプライアンス ポート チャンネルの削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。
 - ステップ 2 [LAN] > [Appliances] の順に展開します。
 - ステップ 3 イネーブルにするポート チャンネルが含まれるファブリック インターコネクットのノードを展開します。
 - ステップ 4 [Port Channels] ノードを展開します。
 - ステップ 5 イネーブルにするポート チャンネルを右クリックし、[Delete] を選択します。
 - ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
-

アプライアンス ポート チャンネル内のポートの追加と削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。

ステップ2 [LAN] > [Appliances] > [Fabric] > [Port Channels] の順に展開します。

ステップ3 ポートを追加または削除するポートチャネルをクリックします。

ステップ4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ5 [Actions] 領域で、[Add Ports] をクリックします。

ステップ6 [Add Ports] ダイアログボックスで、次のいずれかを実行します。

- ポートを追加するには、[Ports] テーブルで1つ以上のポートを選択し、[>>] ボタンをクリックして [Ports in the port channel] テーブルにポートを追加します。
- ポートを削除するには、[Ports in the port channel] テーブルで1つ以上のポートを選択し、[<<] ボタンをクリックしてポートチャネルからポートを削除して [Ports] テーブルに追加します。

ステップ7 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Mini スケーラビリティ ポート

Cisco UCS 6324 Fabric Interconnect には4つのユニファイドポートに加えて、1つのスケーラビリティポートがあります。スケーラビリティポートは、適切に配線されている場合に、4つの1Gまたは10G SFP+ポートをサポート可能な40GB QSFP+ブレイクアウトポートです。スケーラビリティポートは、サポート対象のCisco UCSラックサーバ、アプライアンスポート、またはFCoEポート用のライセンスサーバポートとして使用できます。

Cisco UCS Manager GUI では、スケーラビリティポートは、[Ethernet Ports] ノードの下に [Scalability Port 5] と表示されます。個々のブレイクアウトポートは、[Port 1] ~ [Port 4] と表示されます。

Cisco UCS Manager CLI では、スケーラビリティポートは表示されませんが、個々のブレイクアウトポートは **Br-Eth1/5/1** ~ **Br-Eth1/5/4** として表示されます。

スケーラビリティポートの設定

サポートされている任意のタイプのポートまたはスケーラビリティポートのポートメンバーを設定するには、[Ethernet Ports] モードを展開し、それから、[Scalability Port 5] ノードを展開します。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] タブで、[Fabric Interconnects] > [Fabric Interconnect Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] > [Scalability Port 5] を展開します。

ステップ3 [Scalability Port 5] ノード下のポートをクリックします。

ステップ4 必要に応じて、ポートを設定します。

しきい値定義の作成

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ2 [Admin] タブで、[All] > [Stats Management] > [fabric] > [Internal LAN] > [thr-policy-default] の順に展開します。
- ステップ3 [Create Threshold Class] をクリックします。
- ステップ4 [Choose Statistics Class] > [Create Threshold Class] で、ネットワーク インターフェイス ポートをモニタする [NI Ether Error Stats] 統計情報クラスを選択します。[Stat Class] ドロップダウンリストからこれらのポート用のカスタムしきい値を設定できます。
- ステップ5 [Next] をクリックします。
- ステップ6 [Create Threshold Class] ウィザードの [Threshold Definitions] 画面で、[Add] をクリックします。
[Create Threshold Definition] ダイアログボックスが開きます。
- [Property Type] フィールドから、クラスに定義するしきい値のプロパティを選択します。
 - [Normal Value] フィールドに、そのプロパティタイプに対して必要な値を入力します。
 - [Alarm Triggers (Above Normal Value)] のフィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をおんにします。
 - [Critical]
 - [Major]
 - [Minor]
 - 警告
 - 条件
 - Info
 - [Up] フィールドおよび [Down] フィールドに、アラームをトリガーする値の範囲を入力します。
 - [Alarm Triggers (Below Normal Value)] のフィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をおんにします。
 - [Critical]
 - [Major]
 - [Minor]
 - 警告

- 条件
- Info

- f) [Up] フィールドおよび [Down] フィールドに、アラームをトリガーする値の範囲を入力します。
- g) [OK] をクリックします。

ファブリック ポートのモニタリング

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2** [Equipment] タブで、[Chassis] > [IO Modules] > [IO Module 1] > [Fabric Ports] を展開します。
- ステップ 3** モニタするファブリック ポートをクリックします。
- ステップ 4** 次のタブのいずれかをクリックして、ファブリックのステータスを表示します。

オプション	説明
General	障害の概要、ファブリック プロパティの概要、ファブリックとそのコンポーネントの物理表示など、ファブリックのステータスの概要が示されます。
障害 (Fault)	ファブリックで発生した障害の詳細が表示されます。
[Event]	ファブリックで発生したイベントの詳細が表示されます。
[Statistics]	ファブリックとそのコンポーネントに関する統計情報が表示されます。これらの統計情報は図形式または表形式で表示できます。

ポリシーベースのポート エラー処理

Cisco UCS Manager がアクティブなネットワーク インターフェイス (NI) ポートでエラーを検出し、エラー ディセーブル機能が実装されている場合、Cisco UCS Manager はエラーが発生した NI ポートに接続されているそれぞれのファブリック インターコネクト ポートを自動的にディセーブルにします。ファブリック インターコネクト ポートがエラー ディセーブルになっているときは事実上シャットダウンし、トラフィックはポートで送受信されません。

エラー ディセーブル機能は、次の 2 つの目的で使用されます。

- ファブリック インターコネクト ポートが **error-disabled** になっているポート、および接続されている NI ポートでエラーが発生したことを通知します。
- このポートは同じ Chassis/FEX に接続されている他のポートの障害になる可能性がなくなります。このような障害は、NI ポートのエラーによって発生する可能性があり、最終的に重大なネットワーク上の問題を引き起こす可能性があります。エラーディセーブル機能は、この状況を回避するのに役立ちます。

エラーベース アクションの設定

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
 - ステップ 2** [Admin] > [All] > [Stats Management] > [fabric] > [Internal LAN] > [thr-policy-default] > [etherNiErrStats] の順に展開します。
 - ステップ 3** デルタ プロパティを選択します。
 - ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5** ファブリック インターコネクト ポートでエラー ディセーブル状態を実装するには、[Disable FI port when fault is raised] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 6** 自動リカバリをイネーブルにするには、[Enable Auto Recovery] フィールドで、[Enable] を選択します。
 - ステップ 7** ポートを自動的に再度イネーブルにできるようになるまでの時間を指定するには、[Time (in minutes)] フィールドに必要な値を入力します。
 - ステップ 8** [Save Changes] をクリックします。
-

FCoE ポート チャネル数

FCoE ポート チャネルでは、複数の物理 FCoE ポートをグループ化して 1 つの論理 FCoE ポート チャネルを作成できます。物理レベルでは、FCoE ポート チャネルは FCoE トラフィックをイーサネット ポート チャネル経由で転送します。したがって、一連のメンバから構成される FCoE ポート チャネルは基本的に同じメンバから構成されるイーサネット ポート チャネルです。このイーサネット ポート チャネルは、FCoE トラフィック用の物理トランスポートとして使用されます。

各 FCoE ポート チャネルに対し、Cisco UCS Manager は VFC を内部的に作成し、イーサネット ポート チャネルにバインドします。ホストから受信した FCoE トラフィックは、FCoE トラフィックがファイバチャネルアップリンク経由で送信されるのと同じ方法で、VFC 経由で送信されます。

FCoE ポート チャネルの作成

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。
- ステップ 2 [SAN] > [SAN Cloud] の順に展開します。
- ステップ 3 ポート チャネルを作成するファブリックのノードを展開します。
- ステップ 4 [FCoE Port Channels] ノードを右クリックし、[Create FCoE Port Channel] を選択します。
- ステップ 5 [Create FCoE Port Channel] ウィザードの [Set Port Channel Name] パネルで、ID と名前を指定し、[Next] をクリックします。
- ステップ 6 [Create FCoE Port Channel] ウィザードの [Add Ports] パネルで、追加するポートを指定します。
- ステップ 7 [完了 (Finish)] をクリックします。

FCoE ポート チャネルの削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。
- ステップ 2 [SAN] タブで、[SAN] > [SAN Cloud] > [Fabric] > [FCoE Port Channels] の順に展開します。
- ステップ 3 削除するポート チャネルを右クリックし、[Delete] を選択します。
- ステップ 4 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ユニファイド アップリンク ポート チャネル

同じ ID でイーサネット ポート チャネルと FCoE ポート チャネルを作成した場合、それらはユニファイドポートチャネルと呼ばれます。ユニファイドポートチャネルが作成されると、指定されたメンバを持つファブリック インターコネクで物理イーサネット ポート チャネルと VFC が作成されます。物理イーサネット ポート チャネルは、イーサネット トラフィックと FCoE トラフィックの両方を伝送するために使用されます。VFC は、FCoE トラフィックをイーサネット ポート チャネルにバインドします。

次のルールは、ユニファイドアップリンク ポート チャネルのメンバーポートセットに適用されます。

- 同じ ID のイーサネット ポート チャネルと FCoE ポート チャネルは、同じメンバー ポートセットを持つ必要があります。

- イーサネットポートチャンネルにメンバーポートチャンネルを追加すると、Cisco UCS Manager は、FCoE ポートチャンネルにも同じポートチャンネルを追加します。同様に、FCoE ポートチャンネルにメンバーを追加すると、イーサネットポートチャンネルにもそのメンバーポートが追加されます。
- ポートチャンネルの1つからメンバーポートを削除すると、Cisco UCS Manager は他のポートチャンネルから自動的にそのメンバーポートを削除します。

イーサネットアップリンクポートチャンネルをディセーブルにすると、ユニファイドアップリンクポートチャンネルを構成している物理ポートチャンネルがディセーブルになります。したがって、FCoEアップリンクポートチャンネルもダウンします（FCoEアップリンクがイネーブルになっている場合でも同様です）。FCoEアップリンクポートチャンネルをディセーブルにした場合は、VFCのみがダウンします。イーサネットアップリンクポートチャンネルがイネーブルであれば、FCoEアップリンクポートチャンネルは引き続きユニファイドアップリンクポートチャンネルで正常に動作することができます。

アダプタ ポート チャンネル

アダプタポートチャンネルは、Cisco UCS 仮想インターフェイスカード（VIC）から I/O へのすべての物理リンクを1つの論理リンクにグループ化します。

アダプタポートチャンネルは、正しいハードウェアの存在を検出したときに Cisco UCS Manager によって内部的に作成または管理されます。アダプタポートチャンネルの手動設定はできません。アダプタポートチャンネルは、Cisco UCS Manager GUI または Cisco UCS Manager CLI を使用して表示可能です。

アダプタ ポート チャンネルの表示

手順

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Chassis] > [Chassis_Number] > [Servers] > [Server_Number] > [Interface Cards] の順に展開します
 - ステップ 3 アダプタポートチャンネルを表示するアダプタをクリックします。
 - ステップ 4 [Work] ペインの [DCE Interfaces] タブをクリックします。
 - ステップ 5 アダプタポートチャンネルの詳細を表示するには、[Port Channel] 列のリンクをクリックします。
-

ファブリック ポート チャネル

ファブリック ポート チャネルは、冗長性と帯域幅共有のため、IOM からファブリック インターコネクต์への複数の物理リンクを1個の論理リンクにグループ化できます。ファブリック ポート チャネル内の1個のリンクがアクティブである限り、ファブリック ポート チャネルは動作し続けます。

正しいハードウェアが接続されている場合、ファブリック ポート チャネルはCisco UCS Manager で次のように作成されます。

- シャーシ ディスカバリ ポリシーで定義した設定に従って、シャーシを検出している最中に。
- 特定のシャーシのシャーシ接続ポリシーに設定された内容に従って、シャーシを検出した後に。

IOM のそれぞれに単一のファブリック ポート チャネルがあります。ファブリック インターコネクต์に IOM を接続する各アップリンクは、個別リンクとして設定することもポート チャネルに含めることもできますが、1つのアップリンクが複数のファブリック ポート チャネルに属することはできません。たとえば、2つの IOM を持つシャーシが検出され、ファブリック ポート チャネルを作成するようにシャーシ ディスカバリ ポリシーが設定されている場合、Cisco UCS Manager は2つの独立したファブリック ポート チャネルを作成します。IOM-1 を接続するアップリンク用と、IOM-2 を接続するアップリンク用です。別のシャーシはこれらのファブリック ポート チャネルに加入できません。同様に、IOM-1 のファブリック ポート チャネルに属するアップリンクは、IOM-2 のファブリック ポート チャネルに加入できません。

ポート間のロード バランシング

IOM とファブリック インターコネクต์の間にあるポート間のトラフィックに対するロード バランシングでは、ハッシュに次の基準を使用します。

- イーサネット トラフィックの場合：
 - レイヤ 2 送信元アドレスおよび宛先アドレス
 - レイヤ 3 送信元アドレスおよび宛先アドレス
 - レイヤ 4 送信元ポートおよび宛先ポート
- FCoE トラフィックの場合：
 - レイヤ 2 送信元アドレスおよび宛先アドレス
 - 送信元と宛先の ID (SID と DID) および Originator eXchange ID (OXID)

この例では、2200 シリーズ IOM モジュールは `iomX` (`X` はシャーシ番号) の接続によって確認されます。

```
show platform software fwmctrl nifport
(....)
```

```

Hash Parameters:
  l2_da: 1 l2_sa: 1 l2_vlan: 0
  l3_da: 1 l3_sa: 1
  l4_da: 1 l4_sa: 1
  FCoE l2_da: 1 l2_sa: 1 l2_vlan: 0
  FCoE l3_did: 1 l3_sid: 1 l3_oxid: 1

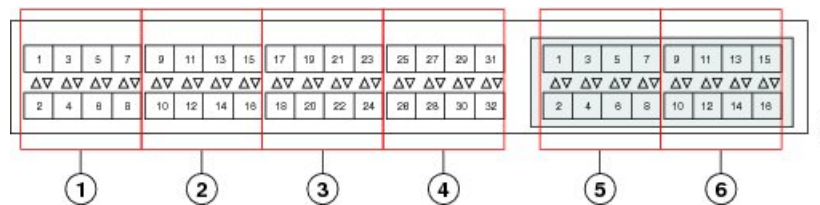
```

ファブリック ポート チャンネルのケーブル接続の考慮事項

Cisco UCS 2200 シリーズ FEX と Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネク ト間のリンクをファブリック ポート チャンネル モードで設定する場合、アダプタで使用可能な仮想インターフェイス (VIF) のネームスペースは、FEX アップリンクがファブリック インターコネク トポートに接続されている場所に応じて異なります。

6248 ファブリック インターコネク ト内には、8 個の連続ポートが 6 セットあり、ポートのセッ トのそれぞれがシングルチップによって管理されます。FEX からのすべてのアップリンクが 1 つのチップによって管理される一連のポートに接続されると、Cisco UCS Manager はシャーシ内のブレードで展開されているサービス プロファイルで使用する VIF の数を最大化します。IOM からのアップリンク接続が別々のチップで管理されるポート間に分散された場合、VIF カ ウントは減少します。

図 6: ファブリック ポート チャンネルのポート グループ



注意 ファブリック ポートチャンネル ポート グループに 2 番目のリンクを追加すると、混乱が生じ、使用可能な VIF ネームスペースの量が 63 から 118 に自動的に増加されます。ただし、さらにリンクを追加しても混乱は生じないため、VIF 名前空間は 118 のままになります。



注意 2 つのファブリック ポートチャンネル ポート グループにシャーシをリンクした場合は、手動で確認応答しない限り、VIF ネームスペースは影響を受けません。その結果、VIF ネームスペースは、2 つのファブリック ポートチャンネル ポート グループの使用量 (63 または 118 VIF) のうち、より少ないサイズに自動的に設定されます。

高可用性 クラスタモード アプリケーションの場合は、対称的な配線構成にすることを強く推奨 します。ケーブル接続が非対称の場合、使用可能な VIF の最大数は 2 つのケーブル設定より 小くなります。

Cisco UCS 環境の VIF の最大数については、ご使用のハードウェアやソフトウェアの設定に関 する制限事項のドキュメントを参照してください。

ファブリック ポート チャネルの設定

手順

ステップ 1 シャーシディスカバリの実行中に IOM からファブリック インターコネクトへのすべてのリンクをファブリック ポートチャネルに含めるには、シャーシディスカバリ ポリシーのリンクグループ化プリファレンスをポート チャネルに設定します。

『Cisco UCS Manager Infrastructure Management Guide, Release 3.2』の「Configuring the Chassis/FEX Discovery Policy」セクションを参照してください。

ステップ 2 シャーシディスカバリの実行中に個々のシャーシからのリンクをファブリック ポートチャネルに含めるには、シャーシ接続ポリシーのリンクグループ化プリファレンスをポートチャネルに設定します。

『Cisco UCS Manager Infrastructure Management Guide, Release 3.2』の「Configuring a Chassis Connectivity Policy」セクションを参照してください。

ステップ 3 シャーシ検出後、追加ファブリック ポートチャネルメンバーポートをイネーブルまたはディセーブルにします。

[ファブリックポートチャネルメンバーポートのイネーブル化またはディセーブル化 \(64ページ\)](#) を参照してください。

次のタスク

シャーシディスカバリ ポリシーまたはシャーシ接続ポリシーの変更後、ファブリック ポートチャネルに対しリンクを追加または削除するには、シャーシを再認識します。ファブリックポートチャネルからシャーシのメンバーポートをイネーブルまたはディセーブルにする場合、シャーシの再認識は必要はありません。

ファブリック ポート チャネルの表示

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [IO Modules] の順に展開します。

ステップ 3 ファブリック ポート チャネルを表示する IOM をクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインの [Fabric Ports] タブをクリックします。

ステップ5 ファブリック ポート チャンネルの詳細を表示するには、[Port Channel] 列のリンクをクリックします。

ファブリック ポート チャンネル メンバー ポートのイネーブル化またはディセーブル化

手順

ステップ1 [Navigation] ペインで [LAN] をクリックします。

ステップ2 [LAN] > [Internal LAN] > [Fabric] > [Port Channels] の順に展開します。

ステップ3 メンバー ポートをイネーブルまたはディセーブルにするポート チャンネルを展開します。

ステップ4 イネーブルまたはディセーブルにするメンバー ポートのイーサネット インターフェイスをクリックします。

ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ6 [Actions] 領域で、次のいずれかをクリックします。

- [Enable Interface]
- [Disable Interface]

ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

Internal Fabric Manager を使用したサーバ ポートの設定

Internal Fabric Manager

Internal Fabric Manager には Cisco UCS ドメイン 内でファブリック インターコネクต์にサーバ ポートを設定できる単一のインターフェイスがあります。Internal Fabric Manager には、そのファブリック インターコネクต์の [General] タブからアクセスできます。

Internal Fabric Manager で行うことができる設定の一部は、[Equipment] タブ、[LAN] タブ、または LAN アップリンク マネージャのノードでも行うことができます。

Internal Fabric Manager の起動

手順

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ3 [Fixed Module] をクリックします。

ステップ4 [Work] ペインで、[Actions] 領域の [Internal Fabric Manager] をクリックします。

別のウィンドウで Internal Fabric Manager が開きます。

Internal Fabric Manager を使用したサーバポートの設定

手順

ステップ1 Internal Fabric Manager で、下矢印をクリックして [Unconfigured Ports] 領域を展開します。

ステップ2 設定するポートを右クリックし、[Configure as Server Port] を選択します。

ステップ3 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ4 Internal Fabric Manager ですべてのタスクが完了したら、[OK] をクリックします。

Internal Fabric Manager を使用したサーバポートの設定解除

手順

ステップ1 [Internal Fabric Manager] で、[Server Ports] テーブルのサーバポートをクリックします。

ステップ2 [Unconfigure Port] をクリックします。

ステップ3 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ4 Internal Fabric Manager ですべてのタスクが完了したら、[OK] をクリックします。

Internal Fabric Manager を使用したサーバポートのイネーブル化

手順

ステップ1 [Internal Fabric Manager] で、[Server Ports] テーブルのサーバポートをクリックします。

ステップ2 [Enable Port] をクリックします。

ステップ3 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ4 Internal Fabric Manager ですべてのタスクが完了したら、[OK] をクリックします。

Internal Fabric Manager を使用したサーバポートのディセーブル化

手順

- ステップ 1 [Internal Fabric Manager] で、[Server Ports] テーブルのサーバポートをクリックします。
 - ステップ 2 [Disable Port] をクリックします。
 - ステップ 3 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
 - ステップ 4 Internal Fabric Manager ですべてのタスクが完了したら、[OK] をクリックします。
-